

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 3月23日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-081520

出 願 人

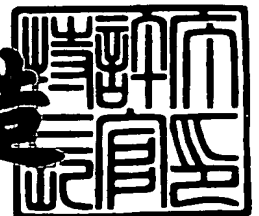
Applicant(s):

株式会社リコー

2001年 3月23日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3022226

【書類名】 特許願

【整理番号】 0002142

【提出日】 平成12年 3月23日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 1/40

【発明の名称】 画像処理，読取，形成およびカラー複写、の各装置

【請求項の数】 21

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 山 川 慎 二

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代表者】 桜 井 正 光

【代理人】

【識別番号】 100076967

【弁理士】

【氏名又は名称】 杉 信 興

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014362

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808723

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像処理、読取、形成およびカラー複写、の各装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 色分解した複数色のカラー画像データを、ブラックおよびそれとは異なる色のそれぞれの出力画像データに変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データの注目画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段と、文字エッジ領域のブラックに隣接する非文字領域に文字エッジ領域のブラックを拡張する画像データ変換手段と、を含む画像認識手段；を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】 前記画像データ変換手段は、文字エッジ領域のブラックに隣接する非文字領域に文字エッジ領域のブラックを大きい膨張量で拡張し、ブラックとは異なる色では、文字エッジ領域の該色に隣接する非文字領域に文字エッジ領域の該色を小さい膨張量で拡張する、請求項 1 記載の画像処理装置。

【請求項 3】 色分解した複数色のカラー画像データを、ブラックおよびそれとは異なる色のそれぞれの出力画像データに変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データが表す画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段、前記カラー画像データが表す画素が白領域であるか否かを検出する白領域検出手段、前記カラー画像データが表す画素が無彩か否かを検出する色判定手段、および、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段および色判定手段の検出に基づいて、黒文字エッジを判定し、この判定を加えて更に文字なか領域を判定する、文字なか判定手段、を含む画像認識手段；および、

該画像認識手段の判定に応じた、高画質にするための処理を画像データに施す手段；

を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 4】 色分解した複数色のカラー画像データを、ブラックおよびそれとは異なる色のそれぞれの出力画像データに変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データが表す画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段、前記カラー画像データが表す画素が白領域であるか否かを検出する白領域検出手段、前記カラー画像データが表す画素が無彩か否かを検出す

る色判定手段、前記カラー画像データが表す画素が網点領域か否かを検出する網点検出手段、および、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段、色判定手段および網点検出手段の検出に基づいて、高濃度黒領域を判定し、この判定を加えて更に文字なか領域を判定する、文字なか判定手段、を含む画像認識手段；および、

該画像認識手段の判定に応じた、高画質にするための処理を画像データに施す手段；

を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 5】 前記文字なか判定手段は、黒文字エッジの内側の黒であって濃度の濃い領域で、網点領域でない領域を高濃度黒領域と判定する、請求項 4 記載の画像処理装置。

【請求項 6】 前記文字なか判定手段は、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段および色判定手段の検出に基づいて、文字エッジかを判定し、文字エッジありのときに、前記黒文字エッジまたは高濃度黒領域かの判定を開始する、請求項 3 または請求項 4 記載の画像処理装置。

【請求項 7】 高画質にするための処理を画像データに施す手段は、文字なか判定手段が判定した文字なか領域にスケルトンブラック処理を行う加色除去手段を含む、請求項 3 または請求項 4 記載の画像処理装置。

【請求項 8】 前記色判定手段は、有彩と検出したブロックに隣接する無彩領域に有彩を拡張する膨張手段を含む、請求項 3 または請求項 4 記載の画像処理装置。

【請求項 9】 前記白領域検出手段は、画像データに基づいて白領域および黒領域を検出し、注目ブロックを中心とした矩形領域の四隅が白領域の時には該注目ブロックを白領域とする、請求項 3 または請求項 4 記載の画像処理装置。

【請求項 10】 前記白領域検出手段は、画像データの 2 値化によって白／黒画素と判定し、この判定を用いて注目画素を中心とする所定複数画素の全てが黒画素の時には、それらの各画素が含まれる所定複数画素のすべての画素を黒領域と検出する、請求項 9 記載の画像処理装置。

【請求項 11】 前記色判定手段は、画像データをそれぞれが 2 値の c , m ,

y および色判定用白信号wに変換する色相分割手段、変換した各色信号を一時保持するメモリ、および、注目画素を中心とする所定複数画素における各画素宛てのc, m, y および色判定用白信号wの分布を所定の複数のパターンと照合して注目画素が色画素かを判定して無彩／有彩領域を検出する色画素判定手段、を含む請求項3または請求項4記載の画像処理装置。

【請求項12】 前記色画素判定手段は、所定複数画素のブロックにすくなくとも1つの色画素があると、該ブロックを色画素ブロックと色画素を拡張し、隣り合うブロックに色画素ブロックがない色画素ブロックは非色画素ブロックに変更し、そして、色画素ブロックを中心とする所定複数ブロックを色画素ブロックとし、色画素ブロックを有彩領域とする、請求項11記載の画像処理装置。

【請求項13】 前記色判定手段は、画像データをそれぞれが2値のc, m, y および色判定用白信号wに変換する色相分割手段、変換した各色信号を一時保持するメモリ、および、注目画素を中心とする所定複数画素における各画素宛てのc, m, y および色判定用白信号wの分布を所定の複数のパターンと照合して注目画素が黒画素かを判定して無彩／有彩領域を検出する色画素判定手段、を含む請求項3または請求項4記載の画像処理装置。

【請求項14】 前記色画素判定手段は、所定複数画素のブロックにすくなくとも1つの黒画素があると、該ブロックを黒画素ブロックと黒画素を拡張し、そして、黒画素ブロックを中心とする所定複数ブロックの該黒画素ブロック以外のブロックが色画素ブロックのときには、該黒画素ブロックも色画素ブロックとし、残った黒画素ブロックを無彩領域とする、請求項13記載の画像処理装置。

【請求項15】 前記画像データは、R, G, B各色の画像データであり、前記網点検出手段は、G色の画像データの網点ピークを検出する第1網点ピーク検出手段、B色の画像データの網点ピークを検出する第2網点ピーク検出手段および両検出手段の少なくとも一方が網点ピークと検出した画素を、所定の小領域ごとに計数し、計数値が設定値を超えると、該小領域を網点領域と判定する網点領域検出手段を含む、請求項4記載の画像処理装置。

【請求項16】 画像データに、それが表す画像のエッジを強調するフィルタ処理を施すフィルタ手段および該フィルタ処理をした画像データに基づいて画像

のエッジを検出するエッジ抽出手段を含み、画像データが文字領域か絵柄領域かを判定する画像認識手段；および、該判定に応じた高画質にするための処理を画像データに施す手段；を備える画像処理装置において、

前記フィルタ手段は、画像データが表すレベルの高低の周期的分布に対しては強調を抑制する、複数のエッジ強調フィルタ処理を含み、画像データが表すレベルの高低の周期的分布を検出し、検出した周期的分布に対応するエッジ強調フィルタ処理を画像データに施す、ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 1 7】 前記周期的分布は、万線パターンである、請求項 1 6 記載の画像処理装置。

【請求項 1 8】 請求項 1 ～ 1 7 のいずれかの画像処理装置と、原稿画像を色分解して読み取って画像データを生成して該画像処理装置に与えるカラーキャナと、を備える画像読取装置。

【請求項 1 9】 前記請求項 1 ～ 1 7 のいずれかの画像処理装置と、その出力画像データを用紙上にプリントアウトするカラープリンタを備える、画像形成装置。

【請求項 2 0】 前記請求項 1 ～ 1 7 のいずれかの画像処理装置と、原稿画像を色分解して読み取って画像データを生成して該画像処理装置に与えるカラーキャナと、該画像処理装置の出力画像データを用紙上にプリントアウトするカラープリンタを備える、カラー複写装置。

【請求項 2 1】 外部からのプリント指示コマンドを解析して前記プリンタにて外部からの画像情報をプリントアウトするプリンタコントローラを更に備える、請求項 2 0 に記載のカラー複写装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、与えられる入力画像データ例えば R, G, B 画像データを、出力用の画像データたとえば c, m, y とブラック b k の画像データに変換する画像処理装置、これに該入力画像データを与えるカラーキャナを組合せた画像読取装置、該画像処理装置にプリンタを組合せた画像形成装置、該画像処理装置にカラ

ースキャナおよびカラープリンタを組合せたカラー複写装置、ならびに、該カラー複写装置に、パソコンなどの外部機器から与えられる画像情報およびプリント指示に対応して該カラープリンタを使用して画像情報をプリントアウトするプリンタコントローラを組合せたカラー複合複写装置、に関し、特に、入力画像データが表す文字画および線画（これら 2 値的な画像を単に文字と称す）とその背景を高品質な画像にするための画像データ処理に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来技術】

特許第 2 8 5 6 8 6 7 号明細書には、黒文字エッジ領域に囲まれた絵柄領域を黒文字領域としてそこに黒単色を割り付けるカラー画像処理装置が開示されている。

【 0 0 0 3 】

特開平 7 - 9 5 3 9 7 号公報には、単色画像処理において、高濃度太文字の太線内部の白ぬけを防ぎしかも小文字のボケを防ぐために、エッジおよび高濃度領域を検出し、所定距離内のエッジで挟まれた高濃度領域を文字領域と識別しそれ以外の高濃度領域は非文字領域と識別して、各領域対応の画像処理を施す原稿読取り装置が開示されている。

【 0 0 0 4 】

特開平 1 0 - 1 0 8 0 1 2 号公報には、入力画像データがエッジ領域、網点領域あるいは白背景領域であるかを検出して、各領域検出の結果から文字領域か絵柄領域かを判定する像域分離装置が開示されている。

【 0 0 0 5 】

なお、特開平 5 - 2 9 2 3 1 2 号公報には、網点ピーク画素を検出し、検出した網点ピーク画素の、小領域上の分布数を計数し計数値を閾値と比較して、該小領域が網点領域か否かを判定する網点領域分離装置が開示されている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、例えば、カラー原稿をカラーースキャナで読み取って R, G, B 画像データを得てそれらを c, m, y および b k の各色材宛ての出力画像データに変

換してそれに基づいて c, m, y および b k の各色材を順次重ねてカラー画像を完成するカラー複写では、原稿のカラー画像対応で同一位置であるべき各色材が相対的にずれを生じ易い。この原因に、カラー原稿の読取における原稿上の同一点にたいする R, G, B 画像データの相対的ずれや、R, G, B 画像データそれぞれに対するエッジ抽出結果の微妙なずれ等がある。例えば、黒エッジ領域に囲まれた絵柄領域の大きさが、R, G, B 画像データの各色処理毎に異なるために、絵柄領域が黒文字領域となったり、絵柄領域のままだったりすることがある。例えば、ブラック b k の作像のときに、絵柄領域との判定であってスケルトンブラックの処理をし、ブラック以外の色材の作像のときに黒文字処理との判定であってフルブラック処理をすると、コピーに現われるブラックは、4 色で本来濃度であるのに、c, m, y の印字はなく薄い b k のみで印字されたものとなる。これは、ブラック b k の作像のときのスケルトンブラック処理が c, m, y の重なりによる黒表現が加わることを想定してブラック b k としては薄い黒の記録にするにもかかわらず、他の色材の作像の時のフルブラック処理が、濃い黒記録のみで c, m, y は記録なしになるからである。c, m, y による黒表現が欠落するとその分薄い黒印字になってしまう。

【 0 0 0 7 】

黒文字をきれいに再現するために、黒エッジを検出して、黒文字のエッジ周辺を黒単色（フルブラック）で再生して色ずれ（4 色重ね位置ずれ）を目立たなくする場合、色材間の位置ずれが大きくなると、黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くなることがある。

【 0 0 0 8 】

文字エッジの内部すなわち文字線幅内部であるか否の検出を、単純にパターンマッチングで行うと、文字の線幅が小さいときは文字エッジの内部を検出できるが、文字の線幅が大きくなるとできなくなる。

【 0 0 0 9 】

文字エッジを確実に検出するために、エッジ強調のフィルタ処理を画像データに施すと、もと画像に階調表現用の万線パターンがあると、それが線画エッジとして強調されて、それを文字エッジと誤認識する可能性が高くなる。これを回避

するためには、万線パターンに対しては反応が鈍いエッジ強調フィルタ係数を設定すれば良いが、原稿が、該フィルタ係数に設定した万線ピッチとは異なるピッチの万線パターンであるときには、それを文字エッジと誤認識する可能性がある。例えば、600 d p i のスキャナの画像データに対して、400 d p i の万線パターンと600 d p i の万線パターンの両方を強調しないようなエッジ強調フィルタ係数の設定は難しい。

【0010】

本発明は、文字の再現画質を高くすること換言すると文字を鮮明に再現することを第1の目的とする。具体的には、文字エッジの外側に隣接して薄い黒または他色があられるのを防止することを第2の目的とし、文字のなかの黒が薄くならないようにすることを第3の目的とし、黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くならないようにすることを第4の目的とし、文字の線幅内か否の識別を正確にすることを第5の目的とし、文字の線幅に係わらず、文字の線幅内か否を正確に識別することを第6の目的とし、万線パターンなど定ピッチの濃度高低分布を文字エッジとして誤認識し誤ったエッジ強調をしてしまう可能性を低減することを第7の目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】

(1) 色分解した複数色のカラー画像データ (R, G, B) を、ブラック (b k) およびそれとは異なる色 (c, m, y) のそれぞれの出力画像データ (b k, c, m, y) に変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データの注目画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段 (322, 326a) と、文字エッジ領域のブラックに隣接する非文字領域に文字エッジ領域のブラックを拡張する画像データ変換手段 (326b) と、を含む画像認識手段 (320) ; を備えることを特徴とする画像処理装置 (I P U 300) 。

【0012】

なお、理解を容易にするためにカッコ内には、図面に示し後述する実施例の対応要素または対応事項の符号を、参考までに付記した。以下も同様である。

【 0 0 1 3 】

これによれば、例えばカラー原稿の読取における原稿上の同一点にたいする R, G, B 画像データの相対的ずれや、R, G, B 画像データそれぞれに対するエッジ抽出結果の微妙なずれ等によって、黒エッジ領域に宛てられるブラック b k のそとに、該領域に整合すべき c, m あるいは y がずれるときでも、該ブラックをそこにも及んで拡張するので、黒文字エッジが鮮明になりその外に c, m あるいは y の色ずれが現われない。黒文字の再現画質が高くなる。具体的には、黒文字エッジの外側に隣接して薄い黒または他色があらわれることがなくなる。

【 0 0 1 4 】

【発明の実施の形態】

(2) 前記画像データ変換手段 (3 2 6 b) は、文字エッジ領域のブラックに隣接する非文字領域に文字エッジ領域のブラックを大きい膨張量で拡張し、ブラックとは異なる色 (c, m, y) では、文字エッジ領域の該色に隣接する非文字領域に文字エッジ領域の該色を小さい膨張量で拡張する、上記 (1) の画像処理装置 (I P U 3 0 0)。

【 0 0 1 5 】

これによれば、上記 (1) に記述した通り、黒文字エッジが鮮明になりその外に c, m あるいは y の色ずれが現われない。黒文字の再現画質が高くなる。具体的には、黒文字エッジの外側に隣接して薄い黒または他色があらわれることがなくなる。また、ブラック b k とは異なる色 (c, m, y) でも、文字エッジ領域の該色に隣接する非文字領域に文字エッジ領域の該色を小さい膨張量で拡張するので、黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くならない。

【 0 0 1 6 】

(3) 色分解した複数色のカラー画像データ (R, G, B) を、ブラック (b k) およびそれとは異なる色 (c, m, y) のそれぞれの出力画像データ (b k, c, m, y) に変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データが表す画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段 (3 2 2, 3 2 6 a), 前記カラー画像データが表す画素が白領域であるか否かを検出する白領域検出手段 (3 2 3), 前記カラー画像データ

が表す画素が無彩 ($B/C = 1$) か否かを検出する色判定手段 (325)、および、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段および色判定手段の検出に基づいて、黒文字エッジ (黒文字信号 C) を判定し、この判定を加えて更に文字なか領域 ($C/P = 1$) を判定する、文字なか判定手段 (326c, 326d)、を含む画像認識手段 (320) ; および、

該画像認識手段 (320) の判定に応じた、高画質にするための処理を画像データに施す手段 (330~390) ;

を備えることを特徴とする画像処理装置 (IPU300) 。

【0017】

これによれば、前記文字エッジ検出、白領域検出、色判定および黒文字エッジ判定の組合せで文字なか領域判定を行うので、黒文字の線幅内か否を高い信頼度で判定することが出来る。この判定に従った高画質処理で、例えば黒文字の線幅内をスケルトンブラック処理にすれば、黒文字が鮮明に再現する。具体的には、たとえば従来は c, m, y, bk の色材間の位置ずれが大きくなって黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くなるときや文字の線幅が大きくなるときでも、黒文字のなかの黒が薄くならず、黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くならない。

【0018】

(4) 色分解した複数色のカラー画像データ (R, G, B) を、ブラック (bk) およびそれとは異なる色 (c, m, y) のそれぞれの出力画像データ (bk, c, m, y) に変換する画像処理装置であつて、

前記カラー画像データが表す画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字エッジ検出手段 (322, 326a), 前記カラー画像データが表す画素が白領域であるか否かを検出する白領域検出手段 (323), 前記カラー画像データが表す画素が無彩 ($B/C = 1$) か否かを検出する色判定手段 (325), 前記カラー画像データが表す画素が網点領域か否かを検出する網点検出手段 (324)、および、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段、色判定手段および網点検出手段の検出に基づいて、高濃度黒領域 (高濃度黒領域信号 B) を判定し、この判定を加えて更に文字なか領域 ($C/P = 1$) を判定する、文字なか判定手段

(3 2 6 c, 3 2 6 d)、を含む画像認識手段(3 2 0) ; および、

該画像認識手段(3 2 0)の判定に応じた、高画質にするための処理を画像データに施す手段(3 3 0 ~ 3 9 0) ;

を備えることを特徴とする画像処理装置(I P U 3 0 0)。

【 0 0 1 9 】

これによれば、網点検出をも参照して上記(3)と同様に文字なか判定をするので、文字なか判定の信頼度が更に高く、上記(3)に記述した効果がより確実にもたらされる。

【 0 0 2 0 】

(5) 前記文字なか判定手段(3 2 6 c, 3 2 6 d)は、黒文字エッジ(黒文字信号C)の内側の黒であって濃度の濃い領域で、網点領域でない領域を高濃度黒領域(高濃度黒領域信号B)と判定する、上記(4)記載の画像処理装置(I P U 3 0 0)。これによれば、文字なか判定の信頼度が更に高くなる。

【 0 0 2 1 】

(6) 前記文字なか判定手段(3 2 6 c, 3 2 6 d)は、前記文字エッジ検出手段、白領域検出手段および色判定手段の検出に基づいて、文字エッジか(白ブロック黒文字信号A)を判定し、文字エッジあり(A 2 1 & A 2 2 & A 2 3 & A 2 4)のときに、前記黒文字エッジ(黒文字信号C)または高濃度黒領域(高濃度黒領域信号B)かの判定を開始する、上記(3)または(4)記載の画像処理装置(I P U 3 0 0)。これによれば、無駄な判定処理を開始する可能性が低減する。

【 0 0 2 2 】

(7) 高画質にするための処理を画像データに施す手段(3 3 0 ~ 3 9 0)は、文字なか判定手段(3 2 6 c, 3 2 6 d)が判定した文字なか領域($C/P = 1$)にスケルトンブラック処理を行う加色除去手段(U C R 3 6 0)を含む、上記(3)または(4)記載の画像処理装置(I P U 3 0 0)。これによれば、黒文字が鮮明に再現する。具体的には、黒文字のなかの黒が薄くならず、黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くならない。

【 0 0 2 3 】

(8) 前記色判定手段(325)は、有彩($B/C=0$)と検出したブロックに隣接する無彩領域($B/C=1$)に有彩($B/C=0$)を拡張する膨張手段(325f11)を含む、上記(3)または(4)記載の画像処理装置(IPU300)。これによれば、色画素の周辺を、黒文字(フルブラック)処理してしまうことがない。

【0024】

(9) 前記白領域検出手段(323)は、画像データに基づいて白領域および黒領域を検出し、注目ブロックを中心とした矩形領域の四隅が白領域の時には該注目ブロックを白領域とする(323g)、上記(3)または(4)記載の画像処理装置(IPU300)。これによれば、図12に丸Bp1～Bp4で囲んだ黒の突出部のように白地で囲まれた黒領域を、絵柄と誤判定する可能性が減る。

【0025】

(10) 前記白領域検出手段(323)は、画像データの2値化によって白／黒画素と判定し(323e)、この判定を用いて注目画素を中心とする所定複数画素(3×3 画素)の全てが黒画素の時には、それらの各画素が含まれる所定複数画素(4×4 画素)のすべての画素を黒領域と検出する(323f)、上記(9)の画像処理装置(IPU300)。これによれば、無彩の検出が確実になる。

【0026】

(11) 前記色判定手段(325)は、画像データをそれぞれが2値のc, m, yおよび色判定用白(w)信号に変換する色相分割手段(325a)、変換した各色信号を一時保持するメモリ(325b-e)、および、注目画素を中心とする所定複数画素(5×5 画素)における各画素宛てのc, m, yおよび色判定用白(w)信号の分布を所定の複数のパターンと照合して注目画素が色画素かを判定して(325f6, 325f1, 325f8)無彩／有彩($B/C=1/0$)領域を検出する色画素判定手段(325f)、を含む、上記(3)または(4)の画像処理装置(IPU300)。これによれば、有彩($B/C=0$)領域を正確に検出することが可能である。

【 0 0 2 7 】

(12) 前記色画素判定手段(325f)は、所定複数画素(4×4画素)のブロックにすくなくとも1つの色画素があると、該ブロックを色画素ブロックと色画素を拡張し(325f9)、隣り合うブロックに色画素ブロックがない色画素ブロックは非色画素ブロックに変更し(325f10)、そして、色画素ブロックを中心とする所定複数ブロック(5×5ブロック)を色画素ブロックとし、色画素ブロックを有彩($B/C=0$)領域とする(325F11)、上記(11)の画像処理装置(IPU300)。これによれば、有彩($B/C=0$)領域を正確に検出することが可能である。

【 0 0 2 8 】

(13) 前記色判定手段(325)は、画像データをそれぞれが2値のc, m, yおよび色判定用白(w)信号に変換する色相分割手段(325a)、変換した各色信号を一時保持するメモリ(325b-e)、および、注目画素を中心とする所定複数画素(5×5画素)における各画素宛てのc, m, yおよび色判定用白(w)信号の分布を所定の複数のパターンと照合して注目画素が黒画素かを判定(325f4, 325f7, 325f18)して無彩/有彩($B/C=1/0$)領域を検出する色画素判定手段(325f)、を含む上記(3)または(4)の画像処理装置(IPU300)。これによれば、無彩($B/C=1$)領域を正確に検出することが可能である。

【 0 0 2 9 】

(14) 前記色画素判定手段(325f)は、所定複数画素(4×4画素)のブロックにすくなくとも1つが黒画素であると、該ブロックを黒画素ブロックと黒画素を拡張し(325f19)、そして、黒画素ブロックを中心とする所定複数ブロック(3×3ブロック)の該黒画素ブロック以外のブロックが色画素ブロックのときには、該黒画素ブロックも色画素ブロックとし、残った黒画素ブロックを無彩($B/C=1$)領域とする(325F20)、上記(13)の画像処理装置(IPU300)。これによれば、無彩/有彩($B/C=1/0$)領域を正確に検出することが可能である。

【 0 0 3 0 】

(15) 前記画像データは、R、G、B各色の画像データであり、前記網点検出手段(324)は、の網点ピークを検出する第1網点ピーク検出手段(324a)、の網点ピークを検出する第2網点ピーク検出手段(324b)および両検出手段(324a、324b)の少なくとも一方が網点ピークと検出した画素を、所定の小領域ごとに計数し、計数値が設定値を超えると、該小領域を網点領域($ht=1$)と判定する網点領域検出手段(324c)を含む、上記(4)の画像処理装置(IPU300)。

【0031】

これによれば、G色の画像データがY色を除くほとんどの色成分に反応し、これらの色成分が像の網点ピークを第1網点ピーク検出手段(324a)が検出する。B色の画像データはY色に反応するので、第2網点ピーク検出手段(324b)がY色の網点ピークを検出する。したがって、網点領域検出手段(324c)の網点領域検出が正確であり、上記(4)の文字なか判定の信頼度が更に高く、上記(3)に記述した効果がより確実にもたらされる。

【0032】

(16) 画像データに、それが表す画像のエッジを強調するフィルタ処理を施すフィルタ手段(321)および該フィルタ処理をした画像データに基づいて画像のエッジを検出するエッジ抽出手段(322)を含み、画像データが文字領域($C/P=3$)か絵柄領域($C/P=0$)かを判定する画像認識手段(320)；および、該判定に応じた高画質にするための処理を画像データに施す手段(330~390)；を備える画像処理装置(IPU300)において、

前記フィルタ手段(321)は、画像データが表すレベルの高低の周期的分布(図6のA、B)に対しては強調を抑制する、複数のエッジ強調フィルタ処理(係数グループA、B)を含み、画像データが表すレベルの高低の周期的分布(図6のA、B)を検出し、検出した周期的分布に対応するエッジ強調フィルタ処理を画像データに施す、ことを特徴とする画像処理装置(IPU300)。

【0033】

これによれば、画像データが表すレベルの高低の周期的分布に対応したエッジ強調フィルタ処理が自動的に行われるので、万線パターンなどを画像エッジとし

て強調してしまうことがなく、文字エッジの検出精度が高い。これにより文字の再現画質を確実に高くすることが可能となる。

【 0 0 3 4 】

(1 7) 前記周期的分布は、万線パターンである、上記 (1 6) の画像処理装置 (I P U 3 0 0) 。これによれば、万線パターンを画像エッジとして強調してしまうことがなく、文字エッジの検出精度が高い。これにより文字の再現画質を確実に高くすることが可能となる。

【 0 0 3 5 】

(1 8) 上記 (1) ~ (1 7) のいずれかの画像処理装置 (I P U 3 0 0) と、原稿画像を色分解して読み取って画像データを生成して該画像処理装置 (I P U 3 0 0) に与えるカラーキャナ (2 0 0) と、を備える画像読取装置 (2 0 0 + I P U 3 0 0) 。この画像読取装置は、文字の再現が鮮明になる画像データを出力する。具体的には、上記 (1) ~ (1 7) に記述した作用効果を発揮する。

【 0 0 3 6 】

(1 9) 上記 (1) ~ (1 7) のいずれかの画像処理装置 (I P U 3 0 0) と、その出力画像データを用紙上にプリントアウトするカラープリンタ (4 0 0) を備える、画像形成装置 (4 0 0 + I P U 3 0 0) 。この画像形成装置は、文字を鮮明に再現する。具体的には、上記 (1) ~ (1 7) に記述した作用効果を発揮する。

【 0 0 3 7 】

(2 0) 上記 (1) ~ (1 7) のいずれかの画像処理装置 (I P U 3 0 0) と、原稿画像を色分解して読み取って画像データを生成して該画像処理装置 (I P U 3 0 0) に与えるカラーキャナ (2 0 0) と、該画像処理装置 (I P U 3 0 0) の出力画像データを用紙上にプリントアウトするカラープリンタ (4 0 0) を備える、カラー複写装置 (2 0 0 + I P U 3 0 0 + 4 0 0) 。このカラー複写装置は、文字を鮮明に複写する。具体的には、上記 (1) ~ (1 7) に記述した作用効果を発揮する。

【 0 0 3 8 】

(21) 外部からのプリント指示コマンドを解析して前記プリンタ(400)にて外部からの画像情報をプリントアウトするプリンタコントローラ(16)を更に備える、上記(20)のカラー複写装置(200+16+IPU300+400)。このカラー複写装置は、パソコンなど外部から与えられる画像情報を、文字を鮮明にしてプリントアウトする。具体的には、上記(1)～(17)に記述した作用効果を発揮する。

【0039】

(22) カラー原稿をデジタル的に読み取り、読み取られたカラー(R, G, B)画像データを基に、イエロー(y)、シアン(c)、マゼンタ(m)、ブラック(bk)の色材を用いて多色重ねによってカラー画像を再生するカラー画像処理装置であって、

前記、カラー画像データの注目画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字検出手段(321, 322, 326a)とブラック作像時に文字エッジ領域に囲まれた非文字領域である場合は、文字エッジ領域に変換する変換手段(326b)を備えることを特徴とする画像処理装置。

【0040】

これによれば、bk作像のみ文字エッジ領域に囲まれた絵柄領域を、文字エッジ領域に補正するので、スキャン毎に文字エッジ領域結果がばらついて、文字エッジ領域に囲まれた絵柄領域は、良好に再現できる。

【0041】

(23) カラー原稿をデジタル的に読み取り、読み取られたカラー(R, G, B)画像データを基に、イエロー(y)、シアン(c)、マゼンタ(m)、ブラック(bk)の色材を用いて多色重ねによってカラー画像を再生するカラー画像処理装置であって、

前記、カラー画像データの注目画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字検出手段(321, 322, 326a)と、

ブラック作像時に文字エッジ領域と処理する大きさと、ブラック作像時以外に文字エッジ領域と処理する大きさとを、異ならせる変換手段(326b)と、を備えることを特徴とする画像処理装置。これによれば、スキャン毎に文字エッ

ジ領域結果がばらついても、文字エッジ領域とそれに囲まれた絵柄領域を、ともに良好に再現できる。

【 0 0 4 2 】

(2 4) 上記 (2 3) において、文字エッジと処理する面積は、 b k 作像のとき大きくブラック作像時以外のとき小さいことを特徴とする画像処理装置。これによれば、 b k 作像時と b k 以外の作像時で、黒文字のエッジ周辺の処理する大きさ面積を変えることにより、黒文字のエッジとエッジ周辺が薄くなることなく。例えば、 b k 作像時にエッジ周辺領域の大きさを 8 として、黒単色再生する。 b k 作像時以外にエッジ周辺領域をエッジ周辺領域の大きさを 5 とする。

【 0 0 4 3 】

(2 5) カラー原稿をデジタル的に読み取り、読み取られたカラー (R , G , B) 画像データを基に、イエロー (y) 、シアン (c) 、マゼンタ (m) 、ブラック (b k) の色材を用いて多色重ねによってカラー画像を再生するカラー画像処理装置であって、

1) . 黒文字エッジを検出する黒文字エッジ検出手段 (3 2 1 , 3 2 2 , 3 2 6 a) と、

2) . 絵柄に囲まれた黒エッジを検出 (白ブロック黒文字信号 A) する絵柄上黒エッジ検出手段 (3 2 6 c) と、

3) . 絵柄上黒エッジ検出に基づいて、黒文字エッジの内部検出 (高濃度領域信号 B) する黒文字検出手段 (3 2 6 c) と、

を備えることを特徴とする画像処理装置。

【 0 0 4 4 】

これによれば、文字にしかない特徴量 (濃度の薄い (白) で囲まれた文字エッジ) を検出 (白ブロック黒文字信号 A) して、その検出した結果により、文字エッジ内部の判定を行い、周辺画素に文字エッジ内部ありとなると、今度は文字内部の特徴量 (濃度が濃い) を含めて文字エッジ内部検出 (高濃度領域信号 B) を行うので文字の幅に関わらず、文字エッジ内部の検出が可能となる。

【 0 0 4 5 】

(26) 黒文字エッジ文字の内部の色は黒であって濃度の濃い領域であることを特徴とする上記(25)の画像処理装置。

【0046】

(27) 黒文字エッジ文字の内部の色は黒であって濃度の濃い領域で、網点領域でないことを特徴とする、上記(25)の画像処理装置。

【0047】

(28) 絵柄は濃度の薄い領域であることを特徴とする上記(25)の画像処理装置。

【0048】

(29) 黒文字検出手段(326c)は、絵柄上黒エッジ検出手段で文字エッジあり(A21&A22&A23&A24)のときに黒文字を検出し、検出処理(高濃度領域信号B)を開始して、周辺画像領域の上記1)項の検出結果を参照して黒文字検出(黒文字信号C)を行うことを特徴とする上記(25)の画像処理装置。

【0049】

(30) 1). 画像データを補正するフィルタ処理を行うフィルタ処理手段(321)と、

2). 上記フィルタ処理手段(321)のフィルタ係数を複数(A, B)備え、画像の状態により係数を選択する係数選択手段(321)と、

3). 上記フィルタ処理手段のフィルタ処理結果でエッジを検出するエッジ抽出手段(322)と、

を備えることを特徴とする画像処理装置。

【0050】

これによれば、たとえば600dpi, 400dpiの万線ピッチを検出して、その結果により、フィルタ係数を切り替える。万線パターンの周期を検出することに、万線パターンを強調しない係数を選択して万線パターンを文字エッジ判定しないしようにすることが可能となる。

【0051】

(31) 上記(30)の画像の状態とは、万線パターンのピッチである。万

線パターンを強調しない係数を選択して万線パターンを文字エッジと判定しないようにすることが可能となる。

【 0 0 5 2 】

本発明の他の目的および特徴は、図面を参照した以下の実施例の説明より明らかになる。

【 0 0 5 3 】

【実施例】

本発明の一実施例の機構の概要を図 1 に示す。この実施例は、デジタルフルカラー複写機である。カラー画像読み取り装置（以下、スキャナという）200は、コンタクトガラス202上の原稿180の画像を照明ランプ205、ミラー群204A、204B、204Cなど、およびレンズ206を介してカラーセンサ207に結像して、原稿のカラー画像情報を、例えば、ブルー（以下、Bという）、グリーン（以下、Gという）およびレッド（以下、Rという）の色分解光毎に読み取り、電氣的な画像信号に変換する。カラーセンサ207は、この例では、3ラインCCDセンサで構成されており、B、G、Rの画像を色ごとに読取る。スキャナ200で得たB、G、Rの色分解画像信号強度レベルをもとにして、図示省略された画像処理ユニットにて色変換処理を行い、ブラック（以下、Bkという）、シアン（以下、Cという）、マゼンダ（以下、Mという）およびイエロー（以下、Yという）の記録色情報を含むカラー画像データを得る。

【 0 0 5 4 】

このカラー画像データを用い、次に述べるカラー画像記録装置（以下、カラープリンタという）400によって、Bk、C、M、Yの画像を中間転写ベルト上に重ね形成し、そして転写紙に転写する。スキャナ200は、カラープリンタ400の動作とタイミングをとったスキャナースタート信号を受けて、照明ランプ205やミラー群204A、204B、204Cなどからなる照明・ミラー光学系が左矢印方向へ原稿走査し、1回走査毎に1色の画像データを得る。そして、その都度、カラープリンタ400で順次、顕像化しつつ、これらを中間転写ベルト上に重ね合わせて、4色のフルカラー画像を形成する。

【 0 0 5 5 】

カラープリンタ 4 0 0 の、露光手段としての書き込み光学ユニット 4 0 1 は、スキャナ 2 0 0 からのカラー画像データを光信号に変換して、原稿画像に対応した光書き込みを行い、感光体ドラム 4 1 4 に静電潜像を形成する。光書き込み光学ユニット 4 0 1 は、レーザー発光器 4 4 1、これを発光駆動する発光駆動制御部（図示省略）、ポリゴンミラー 4 4 3、これを回転駆動する回転用モータ 4 4 4、 $f\theta$ レンズ 4 4 2、反射ミラー 4 4 6 などで構成されている。感光体ドラム 4 1 4 は、矢印で示す如く反時計廻りの向きに回転するが、その周りには、感光体クリーニングユニット 4 2 1、除電ランプ 4 1 4 M、帯電器 4 1 9、感光体ドラム上の潜像電位を検知する電位センサー 4 1 4 D、リボルバー現像装置 4 2 0 の選択された現像器、現像濃度パターン検知器 4 1 4 P、中間転写ベルト 4 1 5 などが配置されている。

【 0 0 5 6 】

リボルバー現像装置 4 2 0 は、B K 現像器 4 2 0 K、C 現像器 4 2 0 C、M 現像器 4 2 0 M、Y 現像器 4 2 0 Y と、各現像器を矢印で示す如く反時計回りの向きに回転させる、リボルバー回転駆動部（図示省略）などからなる。これら各現像器は、静電潜像を顕像化するために、現像剤の穂を感光体ドラム 4 1 4 の表面に接触させて回転する現像スリーブ 4 2 0 K S、4 2 0 C S、4 2 0 M S、4 2 0 Y S と、現像剤を組み上げ・攪拌するために回転する現像パドルなどで構成されている。待機状態では、リボルバー現像装置 4 2 0 は B K 現像器 4 2 0 で現像を行う位置にセットされており、コピー動作が開始されると、スキャナ 2 0 0 で所定のタイミングから B K 画像データの読み取りがスタートし、この画像データに基づき、レーザー光による光書き込み・潜像形成が始まる。以下、B k 画像データによる静電潜像を B k 潜像という。C、M、Y の各画像データについても同じ。この B k 潜像の先端部から現像可能とすべく、B k 現像器 4 2 0 K の現像位置に潜像先端部が到達する前に、現像スリーブ 4 2 0 K S を回転開始して、B k 潜像を B k トナーで現像する。そして、以後、B k 潜像領域の現像動作が続けるが、潜像後端部が B k 潜像位置を通過した時点で、速やかに、B k 現像器 4 2 0 K による現像位置から次の色の現像器による現像位置まで、リボルバー現像装置 4 2 0 を駆動して回動させる。この回動動作は、少なくとも、次の画像データに

よる潜像先端部が到達する前に完了させる。

【 0 0 5 7 】

像の形成サイクルが開始されると、感光体ドラム 4 1 4 は矢印で示すように反時計回りの向きに回転し、中間転写ベルト 4 1 5 は図示しない駆動モータにより、時計回りの向きに回転する。中間転写ベルト 4 1 5 の回転に伴って、B K トナー像形成、C トナー像形成、M トナー像形成および Y トナー像形成が順次行われ、最終的に、B K、C、M、Y の順に中間転写ベルト 4 1 5 上に重ねてトナー像が形成される。B K 像の形成は、以下のようにして行われる。すなわち、帯電器 4 1 9 がコロナ放電によって、感光体ドラム 4 1 4 を負電荷で約 -700 V に一様に帯電する。つづいて、レーザーダイオード 4 4 1 は、B k 信号に基づいてラスタ露光を行う。このようにラスタ像が露光されたとき、当初、一様に荷電された感光体ドラム 4 1 4 の露光された部分については、露光光量に比例する電荷が消失し、静電潜像が形成される。リボルバー現像装置 4 2 0 内のトナーは、フェライトキャリアとの攪拌によって負極性に帯電され、また、本現像装置の B K 現像スリーブ 4 2 0 K S は、感光体ドラム 4 1 4 の金属基体層に対して図示しない電源回路によって、負の直流電位と交流とが重畳された電位にバイアスされている。この結果、感光体ドラム 4 1 4 の電荷が残っている部分には、トナーが付着せず、電荷のない部分、つまり、露光された部分には B k トナーが吸着され、潜像と相似な B k 可視像が形成される。中間転写ベルト 4 1 5 は、駆動ローラ 4 1 5 D、転写対向ローラ 4 1 5 T、クリーニング対向ローラ 4 1 5 C および従動ローラ群に張架されており、図示しない駆動モータにより回転駆動される。さて、感光体ドラム 4 1 4 上に形成した B k トナー像は、感光体と接触状態で等速駆動している中間転写ベルト 4 1 5 の表面に、ベルト転写コロナ放電器（以下、ベルト転写部という。）4 1 6 によって転写される。以下、感光体ドラム 4 1 4 から中間転写ベルト 4 1 5 へのトナー像転写を、ベルト転写と称する。感光体ドラム 4 1 4 上の若干の未転写残留トナーは、感光体ドラム 4 1 4 の再使用に備えて、感光体クリーニングユニット 4 2 1 で清掃される。ここで回収されたトナーは、回収パイプを経由して図示しない排トナータンクに蓄えられる。

【 0 0 5 8 】

なお、中間転写ベルト415には、感光体ドラム414に順次形成する、Bk、C、M、Yのトナー像を、同一面に順次、位置合わせして、4色重ねのベルト転写画像を形成し、その後、転写紙にコロナ放電転写器にて一括転写を行う。ところで、感光体ドラム414側では、BK画像の形成工程のつぎに、C画像の形成工程に進むが、所定のタイミングから、スキャナ200によるC画像データの読み取りが始まり、その画像データによるレーザー光書き込みで、C潜像の形成を行う。C現像器420Cは、その現像位置に対して、先のBk潜像後端部が通過した後で、かつ、C潜像先端が到達する前に、リボルバー現像装置の回転動作を行い、C潜像をCトナーで現像する。以降、C潜像領域の現像をつづけるが、潜像後端部が通過した時点で、先のBk現像器の場合と同様にリボルバー現像装置420を駆動して、C現像器420Cを送り出し、つぎのM現像器420Mを現像位置に位置させる。この動作もやはり、つぎのM潜像先端部が現像部に到達する前に行う。なお、MおよびYの各像の形成工程については、それぞれの画像データの読み取り、潜像形成、現像の動作が、上述のBk像や、C像の工程に準ずるので、説明は省略する。

【0059】

ベルトクリーニング装置415Uは、入口シール、ゴムブレード、排出コイルおよび、これら入口シールやゴムブレードの接離機構により構成される。1色目のBk画像をベルト転写した後の、2、3、4色目を画像をベルト転写している間は、ブレード接離機構によって、中間転写ベルト面から入口シール、ゴムブレードなどは離間させておく。

【0060】

紙転写コロナ放電器（以下、紙転写器という。）417は、中間転写ベルト415上の重ねトナー像を転写紙に転写するべく、コロナ放電方式にて、AC+DCまたは、DC成分を転写紙および中間転写ベルトに印加するものである。

【0061】

給紙バンク内の転写紙カセット482には、各種サイズの転写紙が収納されており、指定されたサイズ of 用紙を収納しているカセットから、給紙コロ483によってレジストローラ対418R方向に給紙・搬送される。なお、符号412B

2は、OHP用紙や厚紙などを手差しするための給紙トレイを示している。像形成が開始される時期に、転写紙は前記いずれかの給紙トレイから給送され、レジストローラ対418Rのニップ部にて待機している。そして、紙転写器417に中間転写ベルト415上のトナー像の先端がさしかかるときに、丁度、転写紙先端がこの像の先端に一致する如くにレジストローラ対418Rが駆動され、紙と像との合わせが行われる。このようにして、転写紙が中間転写ベルト上の色重ね像と重ねられて、正電位につながれた紙転写器417の上を通過する。このとき、コロナ放電電流で転写紙が正電荷で荷電され、トナー画像の殆どが転写紙上に転写される。つづいて、紙転写器417の左側に配置した図示しない除電ブラシによる分離除電器を通過するとき、転写紙は除電され、中間転写ベルト415から剥離されて紙搬送ベルト422に移る。中間転写ベルト面から4色重ねトナー像を一括転写された転写紙は、紙搬送ベルト422で定着器423に搬送され、所定温度にコントロールされた定着ローラ423Aと加圧ローラ423Bのニップ部でトナー像を溶融定着され、排出口ロール対424で本体外に送り出され、図示省略のコピートレイに表向きにスタックされる。

【0062】

なお、ベルト転写後の感光体ドラム414は、ブラシローラ、ゴムブレードなどからなる感光体クリーニングユニット421で表面をクリーニングされ、また、除電ランプ414Mで均一除電される。また、転写紙にトナー像を転写した後の中間転写ベルト415は、再び、クリーニングユニット415Uのブレード接離機構でブレードを押圧して表面をクリーニングする。リピートコピーの場合には、スキャナの動作および感光体への画像形成は、1枚目の4色目画像工程にひきつづき、所定のタイミングで2枚目の1色目画像工程に進む。中間転写ベルト415の方は、1枚目の4色重ね画像の転写紙への一括転写工程にひきつづき、表面をベルトクリーニング装置でクリーニングされた領域に、2枚目のBkトナー像がベルト転写されるようにする。その後は、1枚目と同様動作になる。

【0063】

図1に示すカラー複写機は、パーソナルコンピュータ等のホストから、LAN又はパラレルI/Fを通じてプリントデータが与えられるとそれをカラープリン

タ 4 0 0 でプリントアウト（画像出力）でき、しかもスキャナ 2 0 0 で読取った画像データを遠隔のファクシミリに送信し、受信する画像データもプリントアウトできる複合機能付きのカラー複写機である。この複写機は、構内交換器 P B X を介して公衆電話網に接続され、公衆電話網を介して、ファクシミリ交信やサービスセンタの管理サーバと交信することができる。

【 0 0 6 4 】

図 2 に、図 1 に示す複写機の電気システムの概要を示す。図 2 はメインコントローラ 1 0 を中心に、複写機の制御装置を図示したものである。メインコントローラ 1 0 は、複写機全体を制御する。メインコントローラ 1 0 には、オペレータに対する表示と、オペレータからの機能設定入力制御を行う操作／表示ボード O P B、エディタ 1 5、スキャナ 2 0 0 およびオプションの A D F の制御、原稿画像を画像メモリに書き込む制御、および、画像メモリからの作像を行う制御等を行う、スキャナコントローラ 1 2、プリンタコントローラ 1 6、画像処理ユニット（I P U）4 0、ならびに、カラープリンタ 4 0 0 内において荷電、露光、現像、給紙、転写、定着ならびに転写紙搬送を行う作像エンジンの制御を行うエンジンコントローラ 1 3、等の分散制御装置が接続されている。各分散制御装置とメインコントローラ 1 0 は、必要に応じて機械の状態、動作指令のやりとりを行っている。また、紙搬送等に必要なメインモータ、各種クラッチも、メインコントローラ 1 0 内の図示しないドライバに接続されている。

【 0 0 6 5 】

カラープリンタ 4 0 0 には、給紙トレイからの給紙をはじめとして、感光体 4 1 4 の荷電、レーザ書込みユニットによる画像露光、現像、転写、定着および排紙を行なう機構要素を駆動する電気回路および制御回路、ならびに各種センサ等がある。

【 0 0 6 6 】

プリンタコントローラ 1 6 は、パソコンなど外部からの画像及びプリント指示するコマンドを解析し、画像データとして、印刷できる状態にビットマップ展開し、メインコントローラ 1 0 を介して、プリンタ 4 0 0 を駆動して画像データをプリントアウトする。画像及びコマンドを L A N 及びパラレル I / F を通じて受

信し動作するために、LANコントロール19とパラレルI/F18がある。

【0067】

FAXコントローラ17は、ファクシミリ送信指示があるときには、メインコントローラ10を介してスキャナ200およびIPU300を駆動して原稿の画像を読んで、画像データを、通信コントロール20およびPBXを介して、ファクシミリ通信回線に送出する。通信回線からファクシミリの呼びを受け画像データを受信すると、メインコントローラ10を介して、プリンタ400を駆動して画像データをプリントアウトする。

【0068】

図3には、画像処理ユニット（IPU）300の構成を示す。スキャナ200が発生するR、G、B画像データが、インターフェイス351を介してIPU300に与えられる。なお、B又はR単色の記録をBRユニット355が指示する時には、R、G、B画像データの選択と集成が行われるが、このモードの画像記録処理の説明は省略する。IPU300に与えられたR、G、B画像データは、RGB γ 補正310で、反射率データ（R、G、Bデータ）から濃度データ（R、G、Bデータ）に変換される。

【0069】

原稿認識320が、この濃度R、G、Bデータに基づいて、それらのデータが宛てられる画像領域が文字領域（文字や線画の領域）か絵柄領域（写真や絵の領域&文字領域でない領域）かを判定し、C/P信号およびB/C信号を、RGBフィルタ330、ならびに、インターフェイス353を介してメインコントローラ10に与える；

C/P信号：2ビット信号であり、3を意味する2ビット「11」が
文字エッジ領域を示し、1を意味する2ビット「01」が
文字なか領域を示し、0を意味する2ビット「00」が
絵柄領域を示す；

B/C信号：1ビット信号であり、H（「1」）が無彩領域を示し、
L（「0」）が有彩領域を示す。

【0070】

－原稿認識 3 2 0（図 4）－

図 4 に、原稿認識 3 2 0 の機能をブロック区分で示す。原稿認識 3 2 0 は、文字エッジ検出、文字なか検出、絵柄検出及び有彩／無彩検出を行って、文字エッジ領域、文字なか領域あるいは絵柄領域を表す C／P 信号および有彩領域／無彩領域を表す B／C 信号を発生する。ここで「文字なか」とは、文字エッジの内側すなわち文字線幅内を意味する。

【 0 0 7 1 】

原稿認識 3 2 0 は、大別すると、フィルタ 3 2 1，エッジ抽出 3 2 2，白領域抽出 3 2 3，網点抽出 3 2 4，色判定 3 2 5 および総合判定 3 2 6 からなる。なお、ここでは、スキャナ 2 0 0 の読み取り密度が 6 0 0 d p i 程度の場合を例として説明する。

【 0 0 7 2 】

－フィルタ 3 2 1－

フィルタ 3 2 1 は、主に文字のエッジの抽出ために、スキャナ 2 0 0 が発生する G 画像データを補正する。ここで、スキャナ 2 0 0 で読み取ったデータは、レンズなどの性能でボケていることがあるので、エッジ強調フィルタをかける。ただ、ここでは、単純に原稿のボケを強調し、複写機に広く普及している、階調表現のための万線パターンを強調しない必要がある。万線パターンを強調してしまうと、絵柄（万線パターンによる階調表現領域）をエッジとして抽出して、最終的に文字エッジと誤判定する可能性があるので、強調しないようにする必要がある。また、図 6 に示すように、6 0 0 d p i の万線パターン A と 4 0 0 d p i の万線パターン B は、繰返し周期が異なるので、同一のフィルタ係数で強調しないようにするのは難しい。そのため、画像パターンの周期を検出して、フィルタの係数を切替える。なお図 6 において、主走査方向 x の白一ブロック幅とそれに接する黒一ブロック幅との和が、万線ピッチ（定幅：所定数の画素）すなわち万線周期であり、低濃度中間調の時には白ブロック幅が広がり黒ブロック幅が狭くなる。高濃度中間調になるにつれて、白ブロック幅が狭くなり黒ブロック幅が広がる。

【 0 0 7 3 】

この実施例では、フィルタ処理 3 2 1 の画素マトリクスを、主走査方向 x の画素数 7 × 副走査方向 y（スキャナ 2 0 0 の機械的な原稿走査方向）の画素数 5 として、図 4 上のフィルタ 3 2 1 のブロックに示すように、各画素宛てに各重み付け係数 a 1 ~ a 7, b 1 ~ b 7, c 1 ~ c 7, d 1 ~ d 7, e 1 ~ e 7 を宛てた 2 組の係数グループ（係数マトリクス）A, B がある。次の係数グループ A は、図 6 の 6 0 0 d p i の万線パターン A の強調は抑制ししかも文字のエッジを強調するフィルタ処理用の係数であり、係数グループ B は、図 6 の 4 0 0 d p i の万線パターン B の強調は抑制ししかも文字のエッジを強調するフィルタ処理用の係数である。

【 0 0 7 4 】

係数グループ A

0	-1	0	-2	0	-1	0
0	-1	0	-2	0	-1	0
0	-1	-1	2 0	-1	-1	0
0	-1	0	-2	0	-1	0
0	-1	0	-2	0	-1	0。

【 0 0 7 5 】

係数グループ B

-1	0	0	-2	0	0	-1
-1	0	0	-2	0	0	-1
-1	0	-1	2 0	-1	0	-1
-1	0	0	-2	0	0	-1
-1	0	0	-2	0	0	-1。

【 0 0 7 6 】

なお、横方向が主走査方向 x の並び、縦方向が副走査方向 y の並びである。係数グループ A, B の、グループ内第 1 行の係数が、図 4 上のフィルタ 3 2 1 のブロックの係数マトリクスの、第 1 行の係数 a 1 ~ a 7 であり、係数グループ A, B の第 3 行の中央の「2 0」が、フィルタ 3 2 1 のブロックの係数マトリクスの第 3 行 c 1 ~ c 7 の中央の画素の係数即ち注目画素の係数 c 4 である。係数マト

リクスの各係数に、それに宛てられる画素の画像データが表す値を乗算した積（総計 $7 \times 5 = 35$ 個）の総和（積和値）が、注目画素（c 4 が宛てられた画素）の、フィルタ 3 2 1 で処理した画像データ値として、エッジ抽出 3 2 2 および白領域抽出 3 2 3 に与えられる。ここで注目画素とは、現在処理対象の画素であり、それが順次に x 方向にそして y 方向に位置が異なるものに更新される。

【 0 0 7 7 】

係数グループ A は、図 6 に示す 6 0 0 d p i の万線パターン A の万線ピッチで負の係数（小さい値の係数）が分布しそれらの間に 0（やや大きい値の係数）が分布し、そしてエッジ強調のために注目画素には 2 0（極めて大きな係数）が宛てられている。これにより、画像データ（注目画素）が万線パターン A の領域の黒／白間エッジである時には、それにあてて導出される荷重平均値（積和値）は、万線パターン A でない文字エッジである時に比べて、かなり低い値になる。

【 0 0 7 8 】

係数グループ B は、図 6 に示す 4 0 0 d p i の万線パターン A の万線ピッチで負の係数（小さい値の係数）が分布しそれらの間に 0（やや大きい値の係数）が分布し、そしてエッジ強調のために注目画素には 2 0（極めて大きな係数）が宛てられている。これにより、画像データ（注目画素）が万線パターン B の領域の黒／白間エッジである時には、それにあてて導出される荷重平均値（積和値）は、万線パターン B でない文字エッジである時に比べて、かなり低い値になる。

【 0 0 7 9 】

なお、フィルタ 3 2 1 では、下記条件 1，2 のどちらかが成立したとき、即ち、図 6 の 4 0 0 d p i の万線パターン B である可能性が高い時に、係数グループ B によるフィルタ処理を行い、そうでないときに係数グループ A によるフィルタ処理を行なう：

－条件 1－ [4 0 0 d p i 系の万線パターン B の薄いところ

(図 6 上の白区間) かを見る条件]

$(D[3][1] < D[3][2]) \&$

$(D[3][7] < D[3][6]) \&$

$(ABS(D[3][2] - D[3][4]) > ABS(D[3][4] - D[3][1])) \&$

$$(\text{ABS}(D[3][6] - D[3][4]) > \text{ABS}(D[3][4] - D[3][7]))$$

ー条件2ー〔400dpi系の万線パターンBの濃いところ

(図6上の黒区間)かを見る条件]

$$(D[3][1] > D[3][2]) \&$$

$$(D[3][7] > D[3][6]) \&$$

$$(\text{ABS}(D[3][2] - D[3][4]) > \text{ABS}(D[3][4] - D[3][1])) \&$$

$$(\text{ABS}(D[3][6] - D[3][4]) > \text{ABS}(D[3][4] - D[3][7]))$$

なお、 $D[i][j]$ は、 x, y 分布の画素マトリクス上の、 $x=i, y=j$ の位置の画素の画像データが表す値を意味し、例えば、 $D[3][1]$ は、図4上のフィルタ321のブロックに示す係数マトリクスの係数 a_3 が宛てられる画素の画像データが表す値である。「&」は「論理積：AND」を意味し、「ABS」は、絶対値演算子を意味する。注目画素は、 $D[4][3]$ である。

【0080】

上記条件1又は2が成立すると、その時の注目画素が、図6に示す、600dpi読み取り時の400dpiの万線パターンBの領域のものである、と見なし、係数グループBを用いて、文字エッジ強調のフィルタ処理を行う。条件1および2のいずれも成立しないと、図6に示す、600dpi読み取り時の600dpiの万線パターンAが強調されるのを避ける係数グループAを用いて、文字エッジ強調のフィルタ処理を行う。即ち、画像周期（ピッチ）を検出して、特定周期の画像パターンを強調しないようにしている。万線パターンを強調せずに、文字のエッジを強調することが可能となる。なお、図4には、エッジ処理にG画像データを参照する態様を示すが、G画像データに限らず、輝度データであってもよい。濃い薄いを表現する信号なら適応可能である。

【0081】

ーエッジ抽出322ー

文字領域は、高レベル濃度の画素と低レベル濃度の画素（以下、黒画素、白画素と呼ぶ）が多く、かつ、エッジ部分では、これらの黒画素及び白画素が連続している。エッジ抽出322は、このような黒画素及び白画素それぞれの連続性に基づいて文字エッジを検出する。

【 0 0 8 2 】

－ 3 値化 3 2 2 a －

先ず、3 値化 3 2 2 a で、2 種の閾値 $TH1$ および $TH2$ を用いて、フィルタ 3 2 1 が文字エッジ強調のフィルタ処理をした G 画像データ（エッジ抽出 3 2 2 の入力データ）を 3 値化する。閾値 $TH1$ および $TH2$ は、例えば、画像データが 0 から 255 までの 256 階調（0 = 白）を表す場合、例えば $TH1 = 20$ 、 $TH2 = 80$ に設定する。3 値化 3 2 2 a では、入力データ $< TH1$ であると、該データが宛てられる画素を白画素と、 $TH1 \leq$ 入力データ $< TH2$ であると中間調画素と、 $TH2 \leq$ 入力データであると黒画素と、表す 3 値化データに入力データを変換する。

【 0 0 8 3 】

－ 黒画素連続検出 3 2 2 b，白画素連続検出 3 2 2 c －

黒画素連続検出 3 2 2 b および白画素連続検出 3 2 2 c が、3 値化データに基づいて、黒画素が連続する箇所および白画素が連続する箇所を、それぞれパターンマッチングにより検出する。このパターンマッチングには、本実施例では、図 7 に示す 3×3 画素マトリクスのパターン $BP a \sim BP d$ および $WP a \sim WP d$ を用いる。図 7 に示すパターンにおいて、黒丸は上述の黒画素であることを示し、白丸は上述の白画素であることを示し、いずれの丸印もない空白画素は、黒画素、中間調画素、白画素のいずれであるか問わないものである。 3×3 画素マトリクスの中心の画素が注目画素である。

【 0 0 8 4 】

黒画素連続検出 3 2 2 b は、3 値化データの内容の分布が、図 7 に示す黒画素分布パターン $BP a \sim BP d$ のいずれかにマッチングすると、その時の注目画素を「黒連続画素」としてそれをあらわすデータを該注目画素に与える。同様に、白画素連続検出 3 2 2 c は、図 7 に示す白画素分布パターン $WP a \sim WP d$ のいずれかにマッチングすると、その時の注目画素を「白連続画素」としてそれをあらわすデータを該注目画素に与える。

【 0 0 8 5 】

－ 近傍画素検出 3 2 2 d －

次の近傍画素検出 3 2 2 d は、黒画素連続検出 3 2 2 b および白画素連続検出 3 2 2 c の検出結果について、この近傍画素検出 3 2 2 d での注目画素の近傍に黒連続画素又は白連続画素があるか否かを調べることにより、該注目画素が、エッジ領域と非エッジ領域のいずれにあるかを判定する。より具体的に述べれば、本実施例にあっては、5×5画素マトリクスブロックで、その内部に黒連続画素と白連続画素がそれぞれ1つ以上存在するときに、そのブロックをエッジ領域と判定し、そうでないときに、そのブロックを非エッジ領域と判定する。

【 0 0 8 6 】

－孤立点除去 3 2 2 e－

さらに、文字エッジは連続して存在するので、孤立点除去 3 2 2 e にて孤立しているエッジを非エッジ領域に補正する。そして、エッジ領域と判定した画素に対して” 1 ”（エッジ領域）なる e d g e 信号を出力し、非エッジ領域と判定した画素に対応して” 0 ”（非エッジ領域）なる e d g e 信号を出力する。

【 0 0 8 7 】

－白領域抽出 3 2 3－

白領域抽出 3 2 3 は、2 値化 3 2 3 a，RGB 白抽出 3 2 3 b，、白判定 3 2 3 c，白パターンマッチング 3 2 3 f，黒判定 3 2 3 e，黒パターンマッチング 3 2 3 f および白補正 3 2 3 g からなる。

【 0 0 8 8 】

－2 値化 3 2 3 a－

2 値化 3 2 3 a は、フィルタ 3 2 1 のエッジ強調出力を 2 値化して、白パターンマッチング 3 2 3 f が参照する白データの生成のための 2 値信号を発生する。

【 0 0 8 9 】

－RGB 白抽出 3 2 3 b－

RGB 白抽出 3 2 3 b は、1.) RGB 白地検出、2.) 仮想白画素検出および 3.) 谷白画素検出を行って、画像データが白領域かを判定する：

1.) RGB 白地検出

該 RGB 白地検出では、R，G，B 画像データで白地領域を検出することにより、白背景分離の動作をアクティブにする。すなわち白背景分離の処理を起動す

る。具体的には、図9のパターンWBPに示すように、 3×3 画素マトリックスのR、G、B画像データのすべてが閾値 t_{hws} より小さければ、注目画素（ 3×3 画素マトリックスの中心画素）が白領域と判定してパターンマッチングをアクティブにする。これは、ある程度の広がり白画素領域があるかを検出するものである。

【0090】

2.) 仮想白画素検出

次に、仮想白画素検出では、黄色地を白背景としないために、仮想白画素を定める。ここでは注目画素を中心とする 5×5 画素マトリックスのどこかに、閾値 t_{hw} 以下のB画像データが存在すれば、注目画素を仮想白画素とする。特に、B画像データのみで見ているのは、後述の白判定323cが、G画像データのみに基づいて判定をで行っているので、G画像データでは検出できないYをB画像データにて検出する。

【0091】

3.) 谷白画素検出

次に、谷白画素検出では、上記RGB白地検出で検出できない小さな白領域の谷白画素を、図9に示すG画像データの 5×5 画素マトリクス分布RDPaおよびRDPbに基づいて検出する。具体的には、 5×5 画素マトリクス分布RDPaに基づいて、

$\text{miny} = \min(G[1][2], G[1][3], G[1][4], G[5][2], G[5][3], G[5][4])$ を算出する。即ち、図9に示す 5×5 画素マトリクス分布RDPaの、黒丸を付した画素群の中の最低濃度minyを抽出する。そして、

$\text{maxy} = \max(G[3][2], G[3][3], G[3][4])$

を算出する。即ち、図9に示す 5×5 画素マトリクス分布RDPaの、白丸を付した画素群の中の最高濃度maxyを抽出する。次に、

$\text{mint} = \min(G[2][1], G[3][1], G[4][1], G[2][5], G[3][5], G[4][5])$ を算出する。即ち、図9に示すもう1つの 5×5 画素マトリクス分布RDPbの、黒丸を付した画素群の中の最低濃度mintを抽出する。そして、

$\text{maxt} = \max(G[2][3], G[3][3], G[4][3])$ を算出する。即ち、図9に示す

5×5画素マトリクス分布RDP bの、白丸を付した画素群の中の最高濃度maxtを抽出する。ここで、min () は最小値を検出する関数である。max () は、最大値を検出する関数である。次に、

$$OUT = ((miny-maxy) > 0) \# ((mint-maxt) > 0)$$

を算出する。即ち、(miny-maxy)と(mint-maxt)のうち、正值であって大きいほうの値を谷検出値OUTとし、このOUTの値がある閾値以上であると、注目画素(RDP aまたはRDP bの中心画素)を谷白画素と検出する。このように画像の谷状態を検出して、1.) RGB白地検出では、検出しにくいところを補う。

【0092】

—白判定323c—

ここでは、白判定にもちいる状態変数MSの更新を行う。その内容を図10に示す。まず、白地情報SS[I]と状態変数MSとを比較して(ステップ1)、白地情報SS[I]の方が大きければ、白地情報SS[I]の値を状態変数MSに代入する(ステップ2)。白地領域を検出したら、白地情報SS[I] = 15、状態変数MS = 15とする(ステップ3, 4, 5)。状態変数MSが閾値thw1(13)以上、かつ、仮想白地かつ2値化323aの出力が白である時に、状態変数MSを+1する(ステップ6~10)。状態変数MSの最高値maxは15であり、15を超える時には15にとどめる(ステップ9, 10)。

【0093】

状態変数MSがthw1(13)未満、thw2(1)以上、かつ、仮想白地かつ2値化323aの出力が白かつ谷白画素である時に、状態変数MSをそのままの値に保持する(ステップ8, 11, 12)。

【0094】

上記条件のいずれにも一致ないときは、状態変数MSを-1する(ステップ13)。状態変数MSの最低値MINは0であり、0未満になる時には0にとどめる。

【0095】

白地領域の検出／非検出に対応する上述の処理(ステップ1~4, 6~13)を終えると、白地情報SS[I]にMSの値を代入する(ステップ5)。

【0096】

白地情報 $SS[I]$ は、図11に示す1～Fまで、16画素の、上述のように算出した白地情報 $SS[I]$ を書き込むことが出来るラインメモリに書込む（ステップ14～17）。 I は、主走査方向 x の16個の画素列における画素位置である。1画素宛ての白地情報 $SS[I]$ は4bitである。この書込みの内容は、次の通りである：

$SS[I-1] < SS[I] - 1$ の時、 $SS[I-1] = SS[I] - 1$ をラインメモリにセットする。即ち、ラインメモリのアドレス $[I-1]$ に、アドレス $[I]$ のデータ $SS[I]$ から1を減算したデータ $SS[I-1]$ を書込む（ステップ14, 15）；

$SS[I-2] < SS[I] - 2$ の時、 $SS[I-2] = SS[I] - 2$ をラインメモリにセットする（ステップ16, 17-14, 15）。

【0097】

$SS[I-3] < SS[I] - 3$ の時、 $SS[I-3] = SS[I] - 3$ をラインメモリにセットする（ステップ16, 17-14, 15）；

以下同様にして、最後に、 $SS[I-15] < SS[I] - 15$ の時、 $SS[I-15] = SS[I] - 15$ をラインメモリにセットする（ステップ16, 17-14, 15）。これらの白地情報 $SS[I]$ の値の下限值MINは0であり、0未満になるとときには、0にとどめる。

【0098】

以上の処理により、ラインメモリ上において、状態変数 MS を介して周辺画素に白情報を伝搬させることができる。この白判定323cは、まずRGB白抽出323bの中の1.) RGB白地検出で、白領域を検出するまでは動作をしない。このことにより、フィルタ321のエッジ強調処理後G画像データの後述するパターンマッチングの誤判定をしないようにする。薄い色地上の文字にエッジ強調フィルタ321をかけると、文字周辺のデータが本来の画像データ（色地）より、レベルの低い値（白）となるので、フィルタ321のエッジ強調処理後のデータでパターンマッチングをすると色地上の文字周辺を白地と誤判定しやすい。文字が密なところは上述の処理によって状態変数 MS を更新しするので、白情報

が伝播することが可能である。また、込み入った文字（例えば、「書」）などの文字の中は、1.) RGB白地検出で白検出ができない場合があるが、そのときに3.) 谷白画素検出にて、白と検出する。

ー白パターンマッチング323dー

5×5画素単位のブロックで連続した白画素が存在するか否かで、背景が白かを判断する。そのために、次式が満たされる時に、白パターンマッチングを行う：

(仮想白画素&(状態変数 $\geq t_{hw1}(13)$)) #

(仮想白画素&(状態変数 ≥ 1)&谷白画素)

ここで、#は論理和（オア：又は）を意味する。白パターンマッチングは、2値化323a後の出力に対し、図11の縦横斜めの連続性パターンPMPa～PMPdのいずれかに該当するかをチェックするものである。パターンPMPa～PMPdに付した白丸は、白画素であることを意味する。他の空白画素は、白画素であるか否か不問である。

【0099】

注目画素を中心とする5×5画素マトリクスの白画素分布が図11のパターンPMPa, PMPb, PMPcまたはPMPdに該当すると、注目画素が白パターン画素であると判定し、この白パターンマッチングの結果を4×4画素を1ブロック単位としてブロック化する。即ち、4×4画素の中に一つ以上白パターン画素が存在する時、そのブロックは白ブロックとする。つまり、4×4画素のすべての画素を、白画素とする。

【0100】

ー黒判定323eー

G画像データが閾値 $t_{hb k}$ を越える画素を黒画素と判定する。 $t_{hb k}$ 未満の画素を白画素とする。

【0101】

ー黒パターンマッチング323fー

黒判定323eでの画素単位の黒／白画素判定結果を用いて、黒パターンマッチングを行う。目下処理対象である注目画素を中心とする3×3画素マトリクス

のすべての画素が、図9のパターンBBPに示すように全て黒画素であると、注目画素は黒パターン画素であると判定する。そして、この黒パターンマッチングの結果を4×4画素を1ブロック単位としてブロック化する。即ち、4×4画素の中に一つ以上黒パターン画素が存在する時、そのブロックは黒ブロックとする。つまり、4×4画素のすべての画素を、黒画素とする。

【0102】

ー白補正323gー

ここでは、4.) 白ブロック補正、5.) 黒ブロック補正および6.) 白領域判定により、白領域を抽出する。図11にブロックパターンBCPを示す。このパターンBCPの1つの枠目が1ブロックであり、1ブロックは4×4画素である。

【0103】

4.) 白ブロック補正

白ブロック補正では、×を付した注目ブロックを中心とした15×11ブロックにおいて、四隅の各6×4ブロック領域それぞれに1つ以上の白候補ブロックが存在するときに、注目ブロックに白ブロック補正データを与える。このことにより、白地に囲まれた領域を白領域とする。

【0104】

5.) 黒ブロック補正

黒ブロック補正では、注目ブロックを中心とする3×3ブロックマトリクスにおいて白ブロックが一個以上存在し、かつ、該注目ブロックを中心とする5×5ブロックマトリクスにおいて黒ブロックが1以上存在すれば、該注目ブロックに黒ブロック補正データを与える。このことにより、白ブロックと黒ブロックの境界を白領域とする。

【0105】

6.) 白領域判定

次に、白領域判定では、黒ブロック補正データまたは、白ブロック補正データが存在すれば、白領域とする。

【0106】

図 1 2 に、丸 B p 1 ~ B p 4 で囲んだ黒の突出部は、上述の、注目ブロックを中心とした 15×11 ブロックにおいて四隅の各 6×4 ブロック領域それぞれに 1 つ以上の白候補ブロックが存在するときに注目ブロックに白ブロック補正データを与える白ブロック補正、によって白ブロックに置きかえられる。丸 B p 1 ~ B p 4 で囲んだ黒の突出部のように白地で囲まれた黒領域を、白領域とすることは、そこを絵柄部と判定する可能性を低減する。後述する総合判定 3 2 6 では、非白領域は絵柄と判定するが、丸 B p 1 ~ B p 4 で囲んだ黒の突出部のように白地で囲まれた黒領域を絵柄と誤判定する可能性が減る。さらに、5.) 黒ブロック補正にて、黒地と白地境界を白領域（絵柄）と判定するので、文字エッジは、文字の太さにかかわらず白地判定するので、文字エッジを正しく文字エッジと判定することが可能となる。

【 0 1 0 7 】

ー 網点抽出 3 2 4 ー

第 1 網点ピーク検出 3 2 4 a は、G 画像データを用いて、所定の大きさの二次元局所領域内の画素濃度情報から、網点ドットの一部を形成する画素（網点ピーク画素と呼ぶ）を検出する回路である。局所領域に関して、次の二つの条件が同時に成立するときに、領域の中心画素を網点ピーク画素として検出する：

条件 1：中心画素の濃度レベルが局所領域内で最大（山ピーク）または最小（谷ピーク）である；

条件 2：中心画素に対し点対称関係にある全ての画素のペアについて、画素ペアの濃度レベルの平均と中心画素の濃度レベルとの差の絶対値が、閾値 T_h 以上であること。

【 0 1 0 8 】

図 8 を参照して、第 1 網点ピーク検出 3 2 4 a の検出処理を具体的に説明する。局所領域として 5×5 画素マトリクス（一般化して示すと $M \times M$ 画素マトリクス）のマスクを採用した例である。 5×5 画素マトリクスの各画素の符号を、パターン MP p に示す。注目画素となる中心画素 c 3 の濃度 L_c が、その周囲画素の濃度 $L_1 \sim L_8$ と比較して最大または最小であるとともに、

$$a b s (2 L_c - L_1 - L_8) \geq L_{t h}$$

かつ $abs(2Lc - L2 - L7) \geq Lth$

かつ $abs(2Lc - L3 - L6) \geq Lth$

かつ $abs(2Lc - L4 - L5) \geq Lth$

のときに、マスクの中心画素(Lc)を網点ピーク画素として検出する。 abs 関数は絶対値をとることを意味する。 Lth は閾値(固定値)である。

【0109】

具体的には、周囲画素は、図8に示す周囲画素分布パターンMPaまたはMPdの、4角形を付記した画素とする。周囲画素分布パターンMPaとMPbに基づいた上述の網点ピーク画素検出のどちらかが、網点ピーク画素と検出した時に、そのときの注目画素(中心画素 $c3$)に網点ピーク画素を表す検出信号を与える。2つのパターンを用いるのは、網点の線数に幅広く対応するためである。

【0110】

パターンMPaは、 $L1 = b2$, $L2 = b3$, $L3 = b4$,
 $L4 = c2$, $L5 = c4$, $L6 = d2$,
 $L7 = d3$, $L8 = d4$,

と定めたものである。ここで、 $L1 = b2$ とは、画素 $b2$ の濃度を、上述の網点ピーク画素検出演算の $L1$ の値とすることを意味する。

【0111】

パターンMPbは、 $L1 = b2$, $L2 = a3$, $L3 = b4$,
 $L4 = c1$, $L5 = c5$, $L6 = d2$,
 $L7 = e3$, $L8 = d4$,

と定めたものである。

【0112】

また、複写の場合、副走査方向 y の拡大、縮小はスキャナ200の原稿走査速度の低、高で行うので、スキャナ200からは、副走査方向 y の拡大、縮小があった画像データが与えられる。そこで、縮小のときには、上述のパターンMPa, MPbにかえて、図8上に示すパターンMPc, MPdを用いる。拡大のときには、図8上に示すパターンMPe, MPfを用いる。なお、パターンMPe, MPfにおいて、三角印を与えた画素も、上述の「周囲画素」に加えても良い

【0113】

第2網点ピーク検出324bは、Bデータを用いて網点ピーク検出するものであって、機能は、第1網点ピーク検出324aと同じである。第1網点ピーク検出324aは、G画像データを用いるのでほとんどの色に対して反応するが、Yに対しては反応しないので第2網点ピーク検出324cでは、B画像データを使用して、Yの網点ピークを検出することを目的としている補助的なものである。

【0114】

網点領域検出324cは、第1網点ピーク画素検出324a、第2網点ピーク画素検出324bのどちらかにより検出された山と谷の網点ピーク画素を、所定の大きさの二次元の小領域毎に計数し、山と谷の網点ピーク画素の合計を小領域の計数値Pとする。この計数値Pが閾値 P_{th} より大きいときに、小領域の全画素（あるいは画素単位の処理の場合、小領域の中心画素のみ）を網点領域と判定する。判定の結果は一時メモリ324dに記憶される。

【0115】

注目している小領域の近傍の処理済み領域の網点／非網点判定結果（周辺の特徴情報）に応じ適応的に閾値 P_{th} を変化させる。本実施例においては、閾値 P_{th} として、二つの値 $TH1$ 、 $TH2$ （ただし $TH1 > TH2$ ）が用意され、一時メモリ324dに記憶されている注目小領域近傍の処理済み領域の判定結果によって、その一方の値を選択する。すなわち、近傍の領域が非網点領域と判定されていた場合には、線画領域である可能性が高いので、誤検出を減らすために条件が厳しくなる $TH1$ のほうを閾値 P_{th} として選択する。これに対し、近傍領域が網点領域であると判定されていた場合には、網点領域である可能性が高いので、条件が緩くなる $TH2$ のほうを閾値 P_{th} として用いる。なお、閾値 P_{th} の初期値としては $TH1$ を選択する。

【0116】

図8上のAMPに、上述の小領域の分布を示す。小領域分布パターンAMPのS1～S4のそれぞれは、例えば4×4画素の大きさの小領域（ブロック）であり、S4が注目している小領域、S1、S2およびS3は処理済みの小領域であ

るとする。S 1, S 2 および S 3 のすべてが網点領域であると判定されている時には、T h 2 が S 4 の判定のための閾値 P t h として用いられる。S 1, S 2 および S 3 の一つでも非網点領域と判定されているときは、閾値 P t h として T H 1 が選択される。網点領域と判定したときに“1”で、非網点と判定した時に“0”の網点領域検出信号 h t が網点抽出 3 2 4 から出力される。ただし、これは一例であって、S 1, S 2 および S 3 のいずれか一つの小領域でも網点領域と判定されたときに T H 2 を選択し、すべてが非網点領域と判定されたときにのみ T H 1 を選択するようにしてもよい。さらに、参照する近傍領域を S 1 のみ、あるいは S 2 のみとすることもできる。

【 0 1 1 7 】

一色判定 3 2 5 -

原稿中の色（有彩）画素や黒（無彩）画素を検出する際には、R, G, B の相対的な読み取りずれが、各色画像データのサンプリングや機械的精度のために存在する。図 1 3 を用いて説明する。図 1 3 の（a）は、画像濃度信号で、黒濃度信号は理想的には、R, B, G 濃度信号ともレベルの高低が一致したとき理想の黒である。ところが、実際の画像データは、レンズで C C D 上に画像を結像し、C C D の画像信号をデジタル化したもので、図 1 3 の（b）が理想の高低波形となる。しかし、一般的なスキャナでは、3 ライン C C D センサを用いているため、画像データの R, G, B の各画像を時間的に同時に読み取るのではなく、R, G, B の各ラインセンサは等間隔で配置され、時間的に同時に読むことができないので、どうしても読み取り位置ずれが生じてしまう。例えば、図 1 3 の（b）に示すレベル変化の黒を表す R, G, B 各色濃度信号は、図 1 3 の（c）に示すように、相対的にずれる。このずれが大きいと、黒領域の周縁に色ずれが現われる。

【 0 1 1 8 】

色判定 3 2 5 は、有彩色領域を見つけるものである。入力データ R, G, B は、色相分割 3 2 5 a にて、c, m, y および色判定用 w（白）の信号に変換される。色相分割の例としては、それぞれの色の境界を求め、1 画素内の R, G, B それぞれの画像データの最大値と最小値の差を R G B 差と定義して、以下のよう

にした。ここでは、R、G、B画像データは、数字が大きくなると黒くなる（濃くなる）：

1) . R-Y色相領域境界 (r y)

$$R - 2 * G + B > 0$$

2) . Y-G色相領域境界 (y g)

$$11 * R - 8 * G - 3 * B > 0$$

3) . G-C色相領域境界 (g c)

$$1 * R - 5 * G + 4 * B < 0$$

4) . C-B色相領域境界 (c b)

$$8 * R - 14 * G + 6 * B < 0$$

5) . B-M色相領域境界 (b m)

$$9 * R - 2 * G - 7 * B < 0$$

6) . M-R色相領域境界 (m r)

$$R + 5 * G - 6 * B < 0。$$

【0 1 1 9】

7) . 色判定用W (白) 画素判定：

(R < thwa) & (G < thwa) & (B < thwa)ならば、y=m=c=0とする。thwaは閾値である。

【0 1 2 0】

8) . Y画素判定：

(ry == 1) & (yg == 0) & (RGB差 > thy)ならば、y=1、m=c=0とする。thyは閾値である。

【0 1 2 1】

9) . G画素判定：

(yg == 1) & (gc == 0) & (RGB差 > thg)ならば、c=y=1、m=0とする。thgは閾値である。

【0 1 2 2】

10) . C画素判定：

(gc == 1) & (cb == 0) & (RGB差 > thc)ならば、c=1、m=y=0とする。th

cは閾値である。

【 0 1 2 3 】

1 1) . B画素判定 :

(cb == 1) & (bm == 0) & (RGB差 > thb)ならば、m=c=1、y=0とする。thbは閾値である。

【 0 1 2 4 】

1 2) . M画素判定 :

(bm == 1) & (mr == 0) & (RGB差 > thm)ならば、m=1、y=c=0とする。thmは閾値である。

【 0 1 2 5 】

1 3) . R画素判定 :

(mr == 1) & (ry == 0) & (RGB差 > thr)ならば、y=m=1、c=0とする。thrは閾値である。

【 0 1 2 6 】

1 4) . BK画素判定 : 7) . ~ 1 3) . に該当しない時、y=m=c=1とする。

【 0 1 2 7 】

さらに、色判定用w画素の判定を行う。条件は以下ようになる :

(R < thw) & (G < thw) & (B < thw)ならば、色画素用W画素とし、Wとして出力する。thwは閾値である。ここで、7) ~ 1 4) の優先順位は、数の小さい方を優先する。上述の閾値thwa, thy, thm, thc, thr, thg, thbは、複写(処理)前に決まる閾値である。thwとthwaの関係は、thw > thwaとなっている。出力信号は、c, m, yに各1ビットの3ビットデータと、さらに、色判定用色画素検出のwの1ビットである。ここで色相毎に閾値をかえているのは、色相領域毎に、有彩範囲が異なる時に色相領域に応じた閾値を決定する。この色相分割は、一例であって、どんな式を使用してもよい。

【 0 1 2 8 】

色相分割3 2 5 aの出力c, m, y, wは、ラインメモリ3 2 5 b ~ 3 2 5 e に5ライン蓄え、色画素判定3 2 5 fに入力する。

【0129】

図5に、色画素判定325fの内容を示す。5ライン分の、c, m, y, wのデータは、パターンマッチング325f5～325f7と、カウント325f1～325f6に入力する。ここでまず、B/C信号を求める流れの中のパターンマッチング325f6について説明する。

【0130】

ーパターンマッチング325f6ー

色画素用w画素が存在する時は、その画素の $c = m = y = 0$ に補正する。この補正により、注目画素を中心とする 5×5 画素マトリクスの白レベルが大きくなる。次に注目画素が、色相分割325aで判定した画素のc, m, yの全てが1 ($c = m = y = 1$) または全てが0 ($c = m = y = 0$) 以外の画素(色画素)であるかを、該 5×5 画素マトリクスがつぎのパターンにマッチングするかをチェックすることによって、判定する：

1) . 色画素パターン群

1-1) . パターン1-1 (pm1)

D23 & D33 & D43

1-2) . パターン1-2 (pm2)

D32 & D33 & D34

1-3) . パターン1-3 (pm3)

D22 & D33 & D44

1-4) . パターン1-4 (pm4)

D24 & D33 & D42

中心画素(注目画素)は、D33である。図14にこれらのパターンpm1～pm4を示す。これらのパターン上の白丸は、c, m, yの少なくとも一者が1であることを示す。パターンマッチングを採用するのは、孤立点などを拾わないようにするためである。逆に、網点などの、小面積色検出する際には、中心画素が1 ($c = m = y = 1$) または全てが0 ($c = m = y = 0$) 以外の画素(色画素)であるかで、判定すればよい。

【0131】

2) . 色細線用パターン群

白に囲まれた色線を検出する。これに用いるパターンを図15に示す。図15において、白丸を付した画素は、c, m, yが全て0の画素である。注目画素（中心画素）を中心とする5×5画素マトリクスのデータ（c, m, y）の分布が、図15のパターンp w 1 1 a～p w 1 4 dのいずれかにマッチングすると、そのときの注目画素（中心画素）を色線画素と見なす：

2-1) . パターン2-1 (p w 1 1 a～p w 1 1 d)

((D 1 2 & D 1 3 & D 1 4) & (D 4 2 & D 4 3 & D 4 4)) #

((D 1 2 & D 1 3 & D 1 4) & (D 5 2 & D 5 3 & D 5 4)) #

((D 2 2 & D 2 3 & D 4 2) & (D 4 2 & D 4 3 & D 4 4)) #

((D 2 2 & D 2 3 & D 4 2) & (D 5 2 & D 5 3 & D 5 4))

2-2) . パターン2-2 (p w 1 2 a～p w 1 2 d)

((D 2 1 & D 3 1 & D 4 1) & (D 2 4 & D 3 4 & D 4 4)) #

((D 2 1 & D 3 1 & D 4 1) & (D 2 5 & D 3 5 & D 4 5)) #

((D 2 2 & D 2 3 & D 2 4) & (D 2 4 & D 3 4 & D 4 4)) #

((D 2 2 & D 2 3 & D 2 4) & (D 2 5 & D 3 5 & D 4 5))

2-3) . パターン2-3 (p w 1 3 a～p w 1 3 d)

((D 1 1 & D 2 1 & D 1 2) & (D 3 5 & D 4 4 & D 5 3)) #

((D 1 1 & D 2 1 & D 1 2) & (D 4 5 & D 4 4 & D 5 5)) #

((D 1 3 & D 2 2 & D 3 1) & (D 3 5 & D 4 4 & D 5 3)) #

((D 1 3 & D 2 2 & D 3 1) & (D 4 5 & D 4 4 & D 5 5))

2-4) . パターン2-4 (p w 1 4 a～p w 1 4 d)

((D 1 3 & D 2 4 & D 3 5) & (D 4 1 & D 5 1 & D 5 2)) #

((D 1 4 & D 1 5 & D 2 5) & (D 4 1 & D 5 1 & D 5 2)) #

((D 1 3 & D 2 4 & D 3 5) & (D 3 1 & D 4 2 & D 5 3)) #

((D 1 4 & D 1 5 & D 2 5) & (D 3 1 & D 4 2 & D 5 3)) .

【0 1 3 2】

3) . 白領域パターン群

c, m, yが全て0のところのパターンマッチングを行う。これに用いるパタ

ーンを図16に示す。図16において、白丸を付した画素は、c, m, yが全て0の画素である。注目画素（中心画素）を中心とする5×5画素マトリクスのデータ（c, m, y）の分布が、図16のパターンpw21a～pw24dのいずれかにマッチングすると、そのときの注目画素（中心画素）を白領域画素と見なす：

3-1) . パターン3-1 (pw21a～pw21d)

(D21&D31&D41) #

(D22&D32&D42) #

(D24&D34&D44) #

(D25&D35&D45)

3-2) . パターン3-2 (pw22a～pw22d)

(D12&D13&D14) #

(D22&D23&D24) #

(D42&D43&D44) #

(D52&D53&D54)

3-3) . パターン3-3 (pw23a～pw23d)

(D52&D51&D41) #

(D53&D42&D31) #

(D35&D24&D13) #

(D25&D15&D14)

3-4) . パターン3-4 (pw24a～pw24d)

(D54&D55&D45) #

(D53&D44&D35) #

(D31&D22&D13) #

(D21&D11&D12)。

【0133】

4) . 色画素候補2の判定

上記で抽出したパターンマッチング結果が以下のパターンに一致すれば、注目画素を、色判定用色画素候補2とする：

```
((pm1 == 1) & ((pw11 == 1) # (pw21 != 1))) #
((pm2 == 1) & ((pw12 == 1) # (pw22 != 1))) #
((pm3 == 1) & ((pw13 == 1) # (pw23 != 1))) #
((pm4 == 1) & ((pw14 == 1) # (pw24 != 1)))
```

ここで、(pm1 == 1)は、注目画素を中心とするデータ分布が、パターン p m 1 にマッチングすることを意味し、(pw11 == 1)はパターン p w 1 1 a ~ p w 1 1 d のいずれかにマッチングすることを意味し、(pw21 != 1)はパターン p w 2 1 a ~ p w 2 1 d のいずれかにマッチングすることを意味する。&は論理積を、# は論理和を意味する。このパターンマッチングにより、白領域に囲まれた色画素を色画素候補として、それ以外で白領域が存在する時は、色画素としない。白領域がない色画素パターンマッチングで一致したものは、色画素候補となる。

【 0 1 3 4 】

ー カウント 3 2 5 f 1 ー

注目画素を中心とする 5 × 5 画素マトリクス内に、色判定用 w 画素が存在する時は、その画素の色相分割 3 2 5 a で判定した c, m, y データを c = m = y = 0 に補正する。この補正により、該画素マトリクスの白レベルが大きくなる。そして、該画素マトリクス内の各画素の c, m, y の 1 (c = 1, m = 1, y = 1) の数をカウントする。c, m, y それぞれについてのカウント値の最大値と最小値との差が、t h c n t 以上でかつ最小値が t h m i n 未満ならば、色画素候補 1 とする。t h c n t, t h m i n は、複写 (処理) 前に設定する閾値である。y, m, c にプレーン展開して、N × N のマトリクスにおいてのそれぞれのプレーン毎に数を数えて、最少値をブラックと仮定している。このことにより、黒画素の読み取りが漏れても補正が可能となる。そして最大値と最小値の差で有彩画素を判定している。このことにより、黒画素が読み取りから外れた画素を補正して、有彩画素を抽出する。注目画素を中心とする 5 × 5 画素マトリクス内に一定画素の有彩画素があると注目画素を有彩画素としている。

【 0 1 3 5 】

ー 色画素判定 3 2 5 f 8 ー

パターンマッチング 3 2 5 f 6 とカウント 3 2 5 f 1 の出力にもとづいて、色

画素判定325f8で、色画素か否かを判定する。色画素候補1でかつ色画素候補2であれば、色画素1とする。

【0136】

ーブロック化325f9ー

色画素判定325f8の出力をブロック化325f9にてブロック化をする。ブロック化とは、4×4画素のマトリックスにおいて、1画素以上の色画素1があれば、該4×4画素マトリックス全体を色画素1ブロックとして、出力する。ブロック化325f9以降の処理は、4×4画素を1ブロックとしてブロック単位出力する。

【0137】

ー孤立点除去325f10ー

ブロック化したデータを孤立点除去325f10にて、注目ブロックの隣り合うブロックに色画素1ブロックがなければ孤立点として、除去する。

【0138】

ー膨張325f11ー

孤立点除去325f10の出力を、膨張325f11にて、色画素1ブロックが存在する場合は、5×5ブロックに膨張する。膨張するのは、色画素の周辺を、黒文字処理をしないようにするためである。ここで、出力するB/C信号は、色画素1ブロックの時にL（有彩）を出力し、それ以外の時は、H（無彩）を出力する。

【0139】

ーカウント325f2ー

注目画素を中心とする5×5画素マトリックス内に色判定用w画素が存在する時は、その画素の色相分割325aで判定したc, m, yデータをc=m=y=0に補正する。この補正により、該画素マトリックスの白レベルが大きくなる。そして、該画素マトリックス内の各画素の、c, m, yの1（c=1, m=1, y=1）の数をカウントする。c, m, yそれぞれについてのカウント値の最大値と最小値との差が、thacnt以上でかつ最小値がthamin未満ならば、注目画素を色画素候補1とする。thacnt, thaminは、複写（処理）前に

設定する閾値である。

【 0 1 4 0 】

－色画素判定 3 2 5 f 1 2－

パターンマッチング 3 2 5 f 6 とカウント 3 2 5 f 2 の出力にもとづいて、色画素判定 3 2 5 f 1 2 で、色画素か否かを判定する。色画素候補 1 でかつ色画素候補 2 であれば、色画素 2 とする。

【 0 1 4 1 】

－ブロック化 3 2 5 f 1 3－

色画素判定 3 2 5 f 1 2 の出力をブロック化 3 2 5 f 1 3 にてブロック化をする。即ち、4×4 画素のマトリックスにおいて、1 画素以上の色画素 2 があれば、該 4×4 画素マトリックの全体を色画素 2 ブロックとして、出力する。ブロック化 3 2 5 f 1 3 以降の処理は、4×4 画素を 1 ブロックとしてブロック単位出力する。

【 0 1 4 2 】

－密度 3 2 5 f 1 4－

孤立ブロックの除去のために、3×3 ブロックの中のアクティブ条件（色画素 2 ブロック）が 3 個以上あり、注目画素がアクティブ（色画素）ならば、アクティブブロック（色画素 2 ブロック）とする。

【 0 1 4 3 】

－カウント 3 2 5 f 3－

注目画素を中心とする 5×5 画素マトリクス内の各画素の、c, m, y の 1 (c = 1, m = 1, y = 1) の数をカウントする。c, m, y それぞれについてのカウント値の最大値と最小値との差が、t h a l c n t 以上で、かつカウントした c, m, y の最小値が、t h a l m i n 未満ならば、色画素候補 3 とする。t h a l c n t, t h a l m i n は、複写（処理）前に設定する閾値である。

【 0 1 4 4 】

－パターンマッチング 3 2 5 f 5－

色画素検出で判定した画素（c、m、y）が色画素かを、5×5 画素マトリクスを用いるパターンマッチングで判定する。パターンはパターンマッチング 3 2

5 f 6のものと同一である。パターンマッチングで一致した画素は、色画素候補4とする。

【0145】

—色画素判定3 2 5 f 1 5—

色画素候補3でかつ色画素候補4であれば、色画素3とする。

【0146】

—ブロック化3 2 5 f 1 6—

色画素判定3 2 5 f 1 5の出力をブロック化3 2 5 f 1 6にてブロック化をする。すなわち、4×4画素のマトリックスにおいて、1画素以上の色画素3があれば、該4×4画素マトリックスの全体を色画素3ブロックとして、出力する。ブロック化3 2 5 f 1 6以降の処理は、4×4を1ブロックとしてブロック単位出力する。

【0147】

—密度3 2 5 f 1 7—

孤立ブロックの除去のために、3×3ブロックの中のアクティブ条件（色画素3ブロック）が3個以上あり、注目画素がアクティブ（色画素3）ならば、アクティブブロック（色画素3ブロック）とする。

【0148】

—カウント3 2 5 f 4—

注目画素を中心とする5×5画素マトリックス内の各画素の、色相分割3 2 5 aで判定したc, m, yの1 (c=1, m=1, y=1) の数をカウントする。c, m, yのカウント値の最小値が、t h a b k以上ならば、注目画素を黒画素候補1とする。t h a b kは、複写（処理）前に設定する閾値である。

【0149】

—パターンマッチング3 2 5 f 7—

注目画素を中心とする5×5画素マトリックスにおいて、c=m=y=1の画素のパターンマッチングを行う。

【0150】

1-1). パターン1-1 (p m 1)

D 2 3 & D 3 3 & D 4 3

1-2). パターン1-2 (p m 2)

D 3 2 & D 3 3 & d 3 4

1-3). パターン1-3 (p m 3)

D 2 2 & D 3 3 & D 4 4

1-4). パターン1-4 (p m 4)

D 4 2 & D 3 3 & D 2 4

これらのパターンは図14に示すものであり、図中に丸印を付した画素が、 $c = m = y = 1$ の画素である。これらのパターンのどれかに一致した時に、注目画素を黒画素候補2とする。

【0151】

—無彩判定325f18—

注目画素が、黒画素候補1でかつ黒画素候補2であれば、黒画素とする。

【0152】

—ブロック化325f19—

黒画素の出力をブロック化325f19にてブロック化をする。ここでのブロック化とは、 4×4 画素のマトリックスにおいて、1画素以上の黒画素があれば、該 4×4 画素マトリックスの全体を黒画素ブロックとして、出力する。ブロック化325f19以降の処理は、 4×4 画素を1ブロックとしてブロック単位出力する。

【0153】

—膨張325f20—

3×3 ブロックのマトリックス内において、注目ブロックがアクティブ（黒画素ブロック）で、その周辺画素がノンアクティブ（非黒画素）ならば、注目ブロックをノンアクティブ（非黒画素ブロック）にする。

【0154】

—総合色画素判定325f21—

注目ブロックが、色画素判定325f12でアクティブ（色画素2）と判定されかつ無彩判定325f18でアクティブ（黒画素）と判定されていないならば、

注目ブロックは色（色ブロック）と判定する。また、色画素判定 3 2 5 f 1 5 がアクティブ（色画素）の時も色と判定する。

【0155】

－膨張 3 2 5 f 2 2－

総合色画素判定 3 2 5 f 2 1 で、色と判定したブロックに対して小さな文字を連続と見なすために、注目ブロックを中心とする 9×9 ブロックのマトリックス内に 1 ブロックでもアクティブブロックがあれば、注目ブロックをアクティブブロックとする。ここで、大きく膨張させるのは、文字同士のすき間を埋めるためである。

【0156】

－連続カウント 3 2 5 f 2 3－

連続カウント 3 2 5 f 2 3 では、色画素ブロックの連続性を見て、カラー原稿か白黒原稿かを判定する。膨張 3 2 5 f 2 2 の出力データ（色画素ブロック）の中の色画素の連続数をカウントすることにより、カラー原稿かどうか判定する。

【0157】

注目画素が色画素ブロックにある時に注目画素の左上，上，右上および左の画素の色画素連続数を参照して、注目画素の色画素連続数を算出する。ここで、注目画素を、例えば図 8 の画素分布パターン M P p の c 3 画素とすると、左上，上，右上および左の画素はそれぞれ、b 2，b 3，b 4 および c 2 の画素である。注目画素が色画素ブロックにないときには、それには 0 なる色画素連続数を与える。

【0158】

注目画素が色画素ブロックにある場合は、先ず注目画素（c 3）の上画素（b 3）の色画素連続数をチェックしてそれが 0 であると、参照値 A に右上画素（b 4）の色画素連続数に 1 を加えた値を与え、上画素（b 3）の色画素連続数が 0 であると参照値 A に右上画素（b 4）の色画素連続数を与える。次に、参照値 B に左上画素（b 2）の色画素連続数に 1 を加えた値を与え、参照値 C には上画素（b 3）の色画素連続数に 1 を加えた値を与え、また参照値 D には左画素（c 2）の色画素連続数に 1 を加えた値を与える。そして、参照値 A，B，C および D

のうちの最高値を、注目画素（c 3）の色画素連続数とする。

【0 1 5 9】

注目画素（c 3）に色画素連続数を上述のように与えると、この色画素連続数が設定値 t h a c s 以上であるかをチェックして、t h a c s 以上であると、カラー原稿であると決定して、そこで連続カウント 3 2 5 f 2 3 の処理を終える。色画素連続数が設定値 t h a c s 未満であると、注目画素を走査方向 x, y の次の画素に更新して、上述の処理を繰返す。原稿全面について上述の処理をした結果、最後まで色画素連続数が設定値 t h a c s 未満であったときには、原稿は白黒が像であると決定する。

【0 1 6 0】

上述の色画素連続数は、ほぼたての色付き線分と横の色付き線分の和となる。右上の色画素連続数が、他と異なるのは二重カウントを防ぐためである。色画素連続数の具体的なデータを、図 1 7 に示した。図 1 7 に示す数字を入れた小四角が色画素であり、数字が該画素に与えた色画素連続数である。数字を入れた小四角が連なったブロックが色画素群であり、同一原稿上のどれかの色画素群のなかの色画素連続数が 1 つでも設定値 t h a c s 以上になると、そこでカラー原稿であると、カラーか白黒かの判定を確定する。

【0 1 6 1】

色画素判定 1 ～ 3 （3 2 5 f 8 - 3 2 5 f 1 5）と分けたのは、カラー原稿か白黒原稿かの判定精度を高くするためである。黒文字処理のための色画素判定は、誤判定をしても局所的でさほど目立たない。しかし、カラー原稿か白黒原稿かの判定は、誤判定をすると原稿全体に影響する。そこで、カウント 3 2 5 f 1 - f 4 を独立とした。本来ならば、色相分割 3 2 5 a から独立にした方がよいが色相分割 3 2 5 a を独立にすると、パターンマッチング 3 2 5 f 5 - f 7 のメモリが増えるので、好ましくない。カウント 3 2 5 f 1 - f 4 のパラメータ（色画素候補 1, 3, 黒画素候補 1）で、色画素のパラメータ（色画素 1 - 3）を変更している事により、メモリ量の増加を少なくしている。色画素判定 2, 3 （3 2 5 f 1 2, 3 2 5 f 1 5）を設けているのは蛍光ペンの黄色のような濃度の低い色を検出するためで、さらに、無彩判定（黒画素判定）3 2 5 f 1 8 を備えたのは

濃度を低くすると誤検出した際に補正するためである。蛍光ペンなど濃度の薄い色は、ある程度の幅で黒データで補正しても問題はない。複数の色画素を抽出する際に、w（白）のレベルを変えているだけなので、色画素検出のために2つ分のメモリを持つ必要がなく、1つ分+1ラインの容量で可能である。

【0162】

カラー原稿を複写する際に、1ライン前のカウントデータと現在のラインのカウントデータを参照してカウント値を数えているので、確実に周辺画素の連続を正確に数えることができるので色画素の連続を数えることが可能となる。本実施例は、R、G、B画像データに対して行ったが、R、G、B画像データに限定するものではなく、輝度色差（例えばL a b）などに対して、色相判定することは、容易である。

【0163】

－総合判定326－

総合判定326は、文字判定326a、膨張処理326b、文字なか判定326cおよびデコード326dからなる。

【0164】

－文字判定326a－

文字判定326aでは、エッジ抽出322の結果がエッジありで、網点抽出324の結果が網点なしで白領域抽出323の結果が白領域ありのときは、文字エッジと判定する。

【0165】

－膨張処理326b－

膨張処理326bでは、文字判定326bの結果を8×8ブロックのOR処理をして、その後に3×3ブロックのAND処理をして4ブロックの膨張処理を行う。すなわち、注目ブロックを中心とする8×8ブロックのいずれかのブロックが文字エッジであると、注目ブロックも文字エッジブロックであると仮定し、該注目ブロックを中心とする3×3ブロックのすべてが文字エッジであると注目ブロックを文字エッジと確定し、そして、注目ブロックとそれに隣接する3ブロック、計4ブロックを文字エッジと見なす。OR処理してからAND処理するのは

、特に黒文字の場合、黒文字の領域の周辺に小領域の非黒文字領域が存在すると、処理の差により違和感が感じられることがある。例えば黒が薄く見える。これを防ぐために、OR処理で非黒文字領域を大きくしている。AND処理は、望むべき膨張量にするために行っている。

【0166】

ところでカラー複写機は、1枚の複写をするのに、4回スキャンをするので、スキャン毎に、微妙に文字判定結果が異なる。特に、ブラック作像時に非黒文字判定をし、ブラック作像以外のときに黒文字判定をすると、この黒文字領域は薄くなってしまうので、bk時には8×8ブロックのOR処理をして、その後に3×3ブロックのAND処理をしてbk以外の作像時は、5×5ブロックのOR処理をして、その後は1×1ブロックのAND処理をする。なお、1×1のAND処理をする、と言うことは、その結果が処理前と同一になるので、何の処理もしないと言うことと同義である。膨張処理の結果は、文字エッジ信号としてデコード326dに出力する。

【0167】

このように膨張処理をすることにより、分離結果が異なって文字の領域が薄くなることがなくなる。この膨張処理によって、文字の中部分が濃くなることがあるが、文字のエッジに対して文字のなかは薄いのと濃度は飽和しているので、違和感はない。

【0168】

図18に、カラー複写によるカラー色剤の重なりを、模式的に拡大して示す。図18の(d)が、4色とも黒文字処理した理想の場合を示す。図18の(e)が、4色とも黒文字処理して、bkのみ補正がかからず、bk以外で補正がかかって薄くなった場合を示す。図18の(f)が、本実施例によってbkのみ黒文字処理した、好適な場合を示し、図18の(g)が、本実施例によってbkのみ黒文字処理して、bkのみ補正がかからず、bk以外で補正がかかった好適な場合を示す。

【0169】

図18の(a)が、膨張量は同一で黒文字処理した理想の場合を示す。図18

の (b) は、膨張量は同一で黒文字処理して印字位置がずれた場合 (白く抜ける) を示す。図 1 8 の (c) が、b k の膨張量が大きい場合で、本実施例によって黒文字処理して印字位置がずれた場合を示す。

【0170】

—文字なか判定 3 2 6 c—

文字なか判定 3 2 6 c は、エッジ抽出 3 2 2，白領域抽出 3 2 3，網点抽出 3 2 4，色判定 3 2 5 および文字判定 3 2 6 a の結果を用いて、文字のなか領域可否を表す文字なか信号を生成する。文字なか信号を生成するために用いる処理と信号を、次に示す。

【0171】

文字なか用文字信号：文字判定 3 2 6 a の、文字エッジ／非文字エッジをあらわす出力信号を 5 × 5 ブロックの OR 処理をする。この出力を文字なか用文字信号と言う；

白ブロック黒文字信号 A：文字なか用文字信号がアクティブ (文字エッジ) で、白領域抽出 3 2 3 の白ブロック補正 3 2 3 g の出力が白ブロック補正データありで、色判定 3 2 5 の結果がノンアクティブ (無彩：黒画素ブロック) の時に、白ブロック黒文字信号 A をアクティブとする。すなわち、「白ブロック黒文字」を示すものとする。この場合 (白地に囲まれた黒文字) は、文字である確率が非常に高い；

高濃度黒領域信号 B：白領域抽出 3 2 3 の黒ブロック化の 3 × 3 ブロックの OR がアクティブ (黒) で、色判定 3 2 5 の結果がノンアクティブ (無彩) で、網点抽出 3 2 4 の結果がノンアクティブ (非網点) で、さらに、文字なか用文字信号がノンアクティブ (非文字エッジ) の時に、高濃度黒領域信号 B をアクティブにする。すなわち、「高濃度黒領域」を示すものとする。黒文字のなかは、濃度が濃いので、他の条件と組み合わせて文字なか判定をする；

黒文字信号 C：文字なか用文字信号がアクティブ (文字エッジ) で、色判定 3 2 5 の結果がノンアクティブ (無彩) の時に、黒文字信号 C はアクティブ (黒文字) になる。このアクティブの黒文字部分は、文字のエッジである可能性が高く、その周辺に文字なかがある可能性が高い。

【0172】

ここで、文字なか候補の判定について説明する。白ブロック黒文字信号A、高濃度黒領域信号Bおよび黒文字信号Cを用いて、文字なか候補信号Qを表現すると、次式のようになる：

$$Q24 = (A21 \& A22 \& A23 \& A24)$$

$$\# ((Q13 \# Q23 \# Q14 \# Q15) \& (B24 \# C24))$$

位置関係は図19に示した。記号の2桁の数字の上桁の数字の2は現在のラインy2を示し、1は1ライン前y1を示す。下桁の数字は、ライン上の画素位置xを示す。上式が表す処理を簡単に説明すると、白ブロック黒文字信号Aが連続して存在するとすなわちA21～A24が全てアクティブであると、注目画素を文字なか候補であると仮定し、次に、文字なか候補確定の処理を開始する。すなわち、高濃度黒領域信号B24か黒文字信号C24の周辺に文字なか候補ありと判定した画素(Q13, Q23, Q14またはQ15)があると、注目画素も、文字なか候補と、判定を確定する。つまり、白ブロック文字信号A(アクティブ)が連続して存在するとこの条件をトリガーにして、文字なか候補の判定を開始する。

【0173】

白地に囲まれた黒文字(白ブロック黒文字信号Aがアクティブ)の場合は、そこが文字である確率が非常に高く、白ブロック黒文字信号A(アクティブ)が連続して存在するのは、ほとんどすべて文字であるからである。黒文字信号A(アクティブ)は、文字のエッジである可能性が高く、「文字なか」がその周辺にある可能性が高いので、上述のように、文字なか候補(Q24:アクティブ)としている。この結果を文字なか候補として、デコード326dに出力する。文字なか候補が「文字なか」であるか否かを、デコード326dが最終的に判定する。

【0174】

ーデコード326dー

ここでは、文字なか候補(信号Q:アクティブ)から文字なか信号をつくる。文字なか信号は、文字エッジ信号でなく、文字なか候補であれば、文字なか信号あり(文字なか信号:アクティブ)と判定する。デコード326dが最終的に出

力するC/P信号は、以下の表のようになる：

C/P信号	文字エッジ信号	文字なか信号	領域判定内容
0	なし	なし	絵柄領域
1	なし	あり	文字なか領域
2	—	—	—
3	あり	×	文字エッジ領域

C/P = 2 を出力するケースは存在しない。

【0175】

次に、再度図3を参照する。原稿認識320が発生すC/P信号およびB/C信号は、RGBフィルタ330、色補正340、変倍350、インターフェース352、UCR360、CMYBkフィルタ370、CMYBk γ 補正380および階調処理390に、画像データに同期してカスケードに与えられる。

【0176】

RGBフィルタ330は、RGBデータをMTF補正するフィルタであり、N×Nの画素マトリックスに対応する係数マトリクスと、各係数に各画像データを乗じて重み付け平均値を得るロジックで構成されている。C/P信号が3を表すもの（文字エッジ領域）である時には、鮮鋭化処理用の係数マトリクスを用い、0又は1を表すもの（文字なか領域又は絵柄領域）である時には平滑化処理用の係数マトリクスを用いて、重み付け平均値を導出し色補正340に出力する。色補正340は、R、G、Bデータを一次のマスキング処理等でC、M、Yデータに変換する。変倍350は、画像データに、主走査方向xの拡大・縮小または等倍処理を施す。

【0177】

UCR360は、画像データの色再現を向上させるためのものであり、色補正340から入力したC、M、Yデータの共通部分をUCR（加色除去）処理してBkデータを生成し、C、M、Y、Bkデータを出力する。ここで、C/P信号が3（文字エッジ領域）以外の時（文字なか領域又は絵柄領域のとき）は、スケルトンブラック処理を行う。C/P信号が3（文字エッジ領域）の時は、フルブラック処理を行う。さらにC/P信号が3（文字エッジ領域）かつB/C信号が

H（無彩領域）の時は、C，M，Yのデータをイレースする。これは、黒文字の時、黒成分のみで表現するためである。

【0178】

また、UCR360の出力画像信号IMGは、一時点はC，M，Y，Bkのうち一色であり、面順次の一色出力である。すなわち、4回原稿読み取りを行うことにより、フルカラー（4色）データを生成する。また、白黒複写のときは、Bk作像一回でよいので、1回の原稿読み取りでよい。カラー原稿か、白黒原稿かの判定機構があれば、原稿に応じた読み取り回数ですむので、操作者が、原稿に応じてカラー原稿か白黒原稿かを判断して複写する必要がなくなる。本実施例では、B/C信号がカラー原稿か、白黒原稿かの判定に参照する信号である。原稿全面でB/C信号がH（無彩領域）であったときにメインコントローラ10が、白黒原稿と判定する。

【0179】

CMYBkフィルタ370は、カラープリンタ400の周波数特性やC/P信号に応じて、N×Nの空間フィルタを用い、平滑化や鮮鋭化処理を行う。CMYBk γ 補正380は、カラープリンタ400の周波数特性やC/P信号に応じて、 γ カーブを変更し処理する。C/P信号が0（絵柄領域）又は1（文字なか領域）の時は画像を忠実に再現する γ カーブを用い、C/P信号が3（文字エッジ領域）の時は γ カーブを立たせてコントラストを強調する。

【0180】

階調処理390は、カラープリンタ400の階調特性やC/P信号に応じて、ディザ処理、誤差拡散処理等の量子化を行う。Bk作像の時は、C/P信号が0（絵柄領域）の時は階調重視の処理を行い、それ以外の時は解像力重視の処理を行う。Bk以外の作像の時は、C/P信号が0（絵柄領域）又は1（文字なか領域）の時は階調重視の処理を行い、それ以外の時は解像力重視の処理を行う。以上の処理をした画像データは、バッファメモリを有するビデオコントロール359からカラープリンタ400に、その画像データ書込み動作に同期して、与えられる。

【0181】

上記 I P U 3 0 0 は、絵柄処理 (C/P 信号 = 0) の時は、RGB フィルタ 3 3 0 で平滑化処理を行い、UCR 3 6 0 でスケルトンブラックの処理を行い、CMYBk γ 補正 3 8 0 ではリニア (階調性) を重視したカーブを選択し、CMYBk フィルタ 3 7 0 および階調処理 3 9 0 では階調を重視した処理を行う。

【0182】

一方、文字処理 (C/P 信号 = 3 で B/C 信号 = L) の時は、RGB フィルタ 3 3 0 でエッジ強調処理を行い、UCR 3 6 0 でフルブラック処理を行い、CMYBk γ 補正 3 8 0 ではコントラストを重視したカーブを選択し、CMYBk フィルタ 3 7 0 および階調処理 3 9 0 では解像度を重視した処理を行う。

【0183】

また、黒文字処理 (C/P 信号 = 3 で B/C 信号 = H) として、Bk を除く C, M, Y の画像形成時には、C, M, Y データを印字しない。これは、黒文字の周りが位置ずれのために色付くのを防ぐためである。また、この時の Bk データの RGB フィルタ 3 3 0 は色文字のときより、エッジ強調を強めにおこなってくっきりさせても良い。

【0184】

さらに、文字なか処理 (C/P 信号 = 1) の時は、RGB フィルタ 3 3 0 で平滑化処理を行い、UCR 3 6 0 でスケルトンブラックの処理を行い、CMYBk γ 補正 3 8 0 ではリニア (階調性) を重視したカーブを選択し、CMYBk フィルタ 3 7 0 では階調を重視した処理を行う。

【0185】

このように I P U 3 0 0 では、絵柄、文字エッジ、絵柄上の文字および文字なか処理の 4 種の処理を行う。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施例であるカラー複合機能複写装置の、機構の概要を示す縦断面図である。

【図 2】 図 1 に示す複写装置の電気系統のシステム構成を示すブロック図である。

【図 3】 図 2 に示す I P U 3 0 0 の機能構成を示すブロック図である。

【図 4】 図 3 に示す原稿認識 3 2 0 の機能構成を示すブロック図である。

【図 5】 図 4 に示す色画素判定 3 2 5 f の機能構成を示すブロック図である。

【図 6】 複写機で中間調表現に用いられることが多い万線パターンを示す拡大平面図である。

【図 7】 図 4 に示す黒画素連続検出 3 2 2 b および白画素連続検出 3 2 2 c で検出する画素分布を示す 3 × 3 画素マトリクスの拡大平面図である。

【図 8】 図 4 に示す第 1 網点ピーク検出 3 2 4 a が、網点検出に参照する画素を示す 5 × 5 画素マトリクス MP p, MP a ~ MP f の拡大平面図、および、網点をカウントする 4 × 4 画素マトリクスを 1 ブロックとする 2 × 2 ブロックパターン AMP の拡大平面図である。

【図 9】 注目画素の白／黒判定に参照する 3 × 3 画素マトリクス WB p / B B p と、図 4 に示す RGB 白抽出 3 2 3 b の中の、3.) 谷白画素検出で検出する画素分布を示す 5 × 5 画素マトリクス RDP a, RDP b の拡大平面図である。

【図 10】 図 4 に示す白判定 3 2 3 C での、周辺画素に白情報を伝播させる情報処理を示すフロチャートである。

【図 11】 LPA は白情報の伝播に使用するラインメモリのデータ書込み一を示す平面図、PMP a ~ PMP d は、図 4 に示す白パターンマッチング 3 2 3 d で検出する画素分布を示す 5 × 5 画素マトリクスの拡大平面図、BCP は、図 4 に示す白補正 3 2 3 g で、4 隅方向を白で囲まれているかを検出するために用いるブロックマトリクスの拡大平面図ある。

【図 12】 図 4 に示す白補正 3 2 3 g で、黒として間違いなく処理される黒突出領域 B p 1 ~ と B p 4 を示す、黒画像の拡大平面図である。

【図 13】 カラー画像をカラーキャナで読んで R、G、B 画像データを得るときの、画像データ間のずれを示すグラフであり、(a) は原稿上の黒領域を、(b) はそれを記録表現するブラック色材 b k に宛てる画像データを、(c) は c, m, y の色材に当てる画像データを、模式的に示す。

【図 14】 図 5 に示すパターンマッチング 3 2 5 f 6 で、注目画素が色画素

と判定する画素分布を示す 5 × 5 画素マトリクスの拡大図である。

【図 1 5】 図 5 に示すパターンマッチング 3 2 5 f 6 で、注目画素が色細線画素と判定する画素分布を示す 5 × 5 画素マトリクスの拡大図である。

【図 1 6】 図 5 に示すパターンマッチング 3 2 5 f 6 で、注目画素が白領域画素と判定する画素分布を示す 5 × 5 画素マトリクスの拡大図である。

【図 1 7】 図 5 に示す連続カウント 3 2 5 f 2 3 による色画素連続数の値を具体的に示す平面図である。

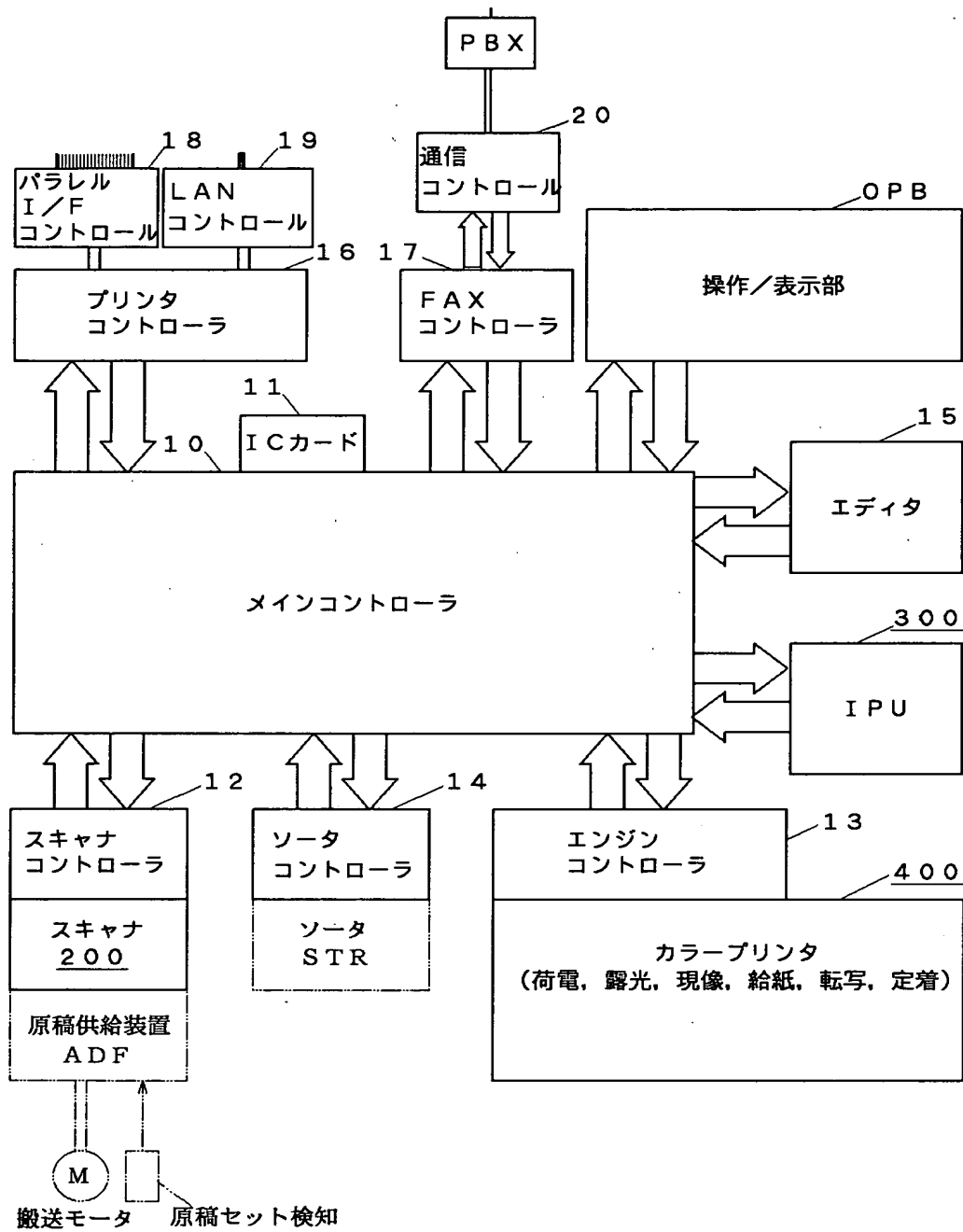
【図 1 8】 カラー複写によるカラー色剤の重なりを、模式的に拡大して示す拡大縦断面図である。

【図 1 9】 図 4 に示す文字なか判定 3 2 6 c で判定に参照するデータの分布を示す平面図である。

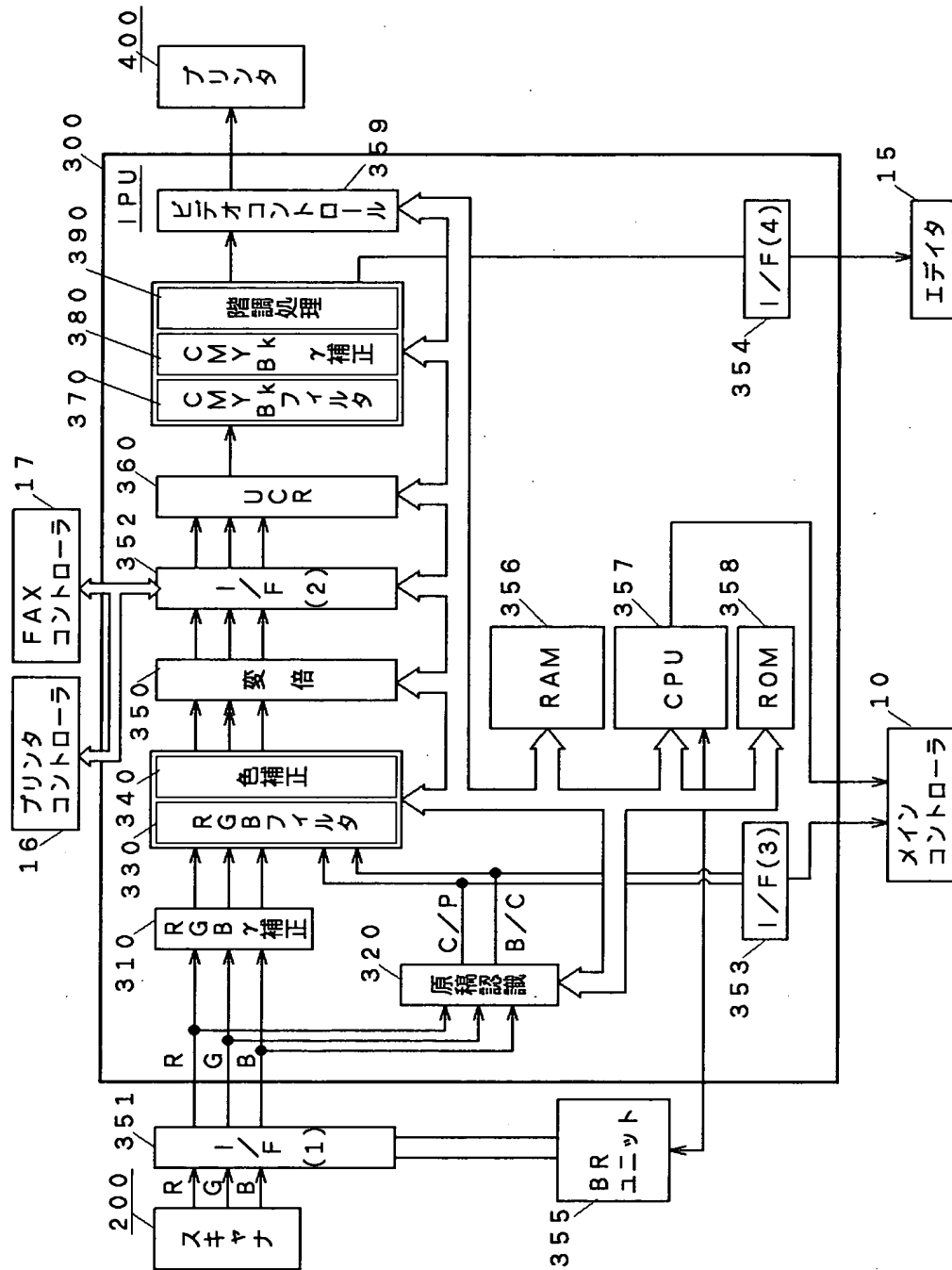
【符号の説明】

2 0 0 : スキャナ 3 0 0 : 画像処理装置
4 0 0 : プリンタ

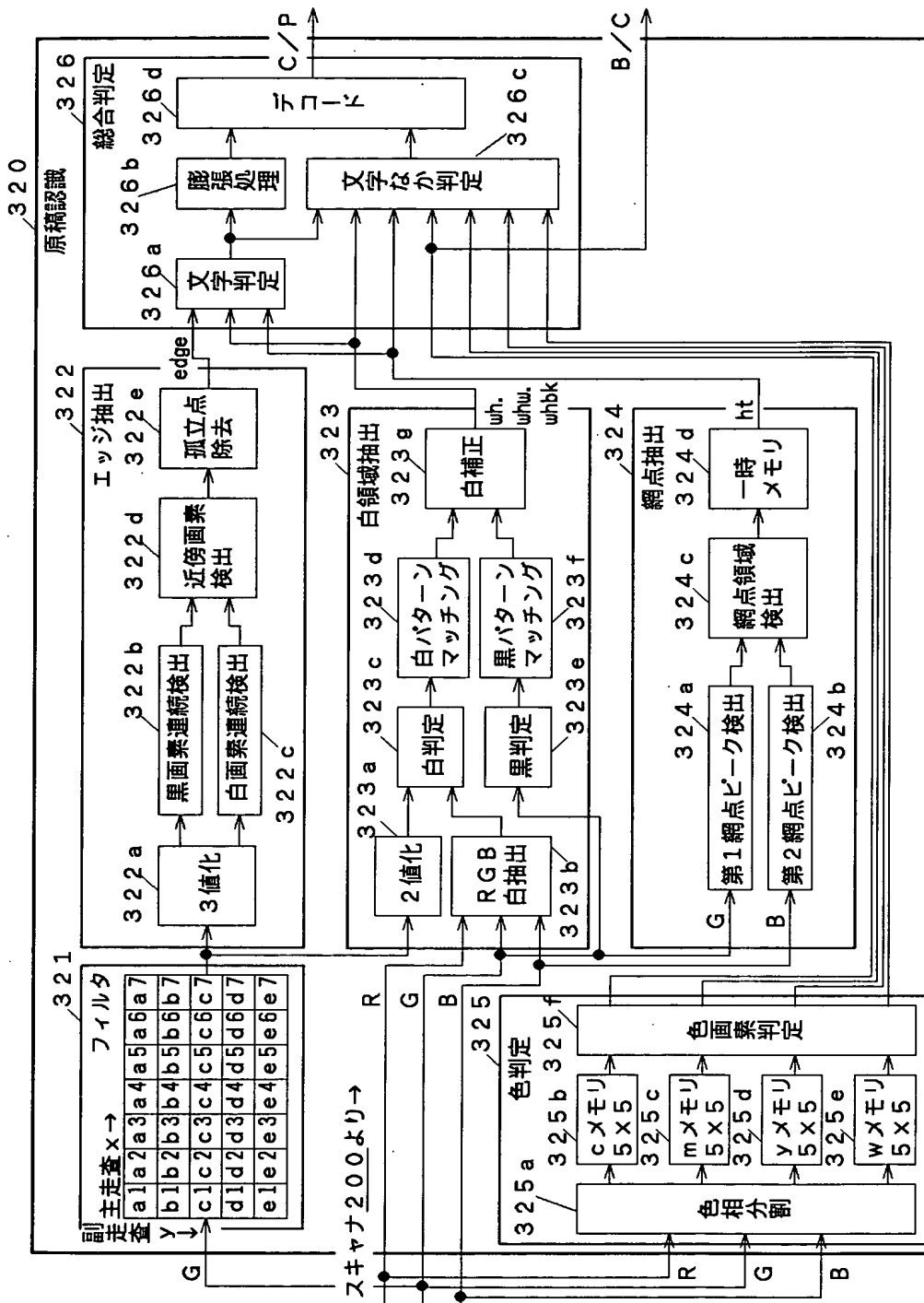
【図 2】



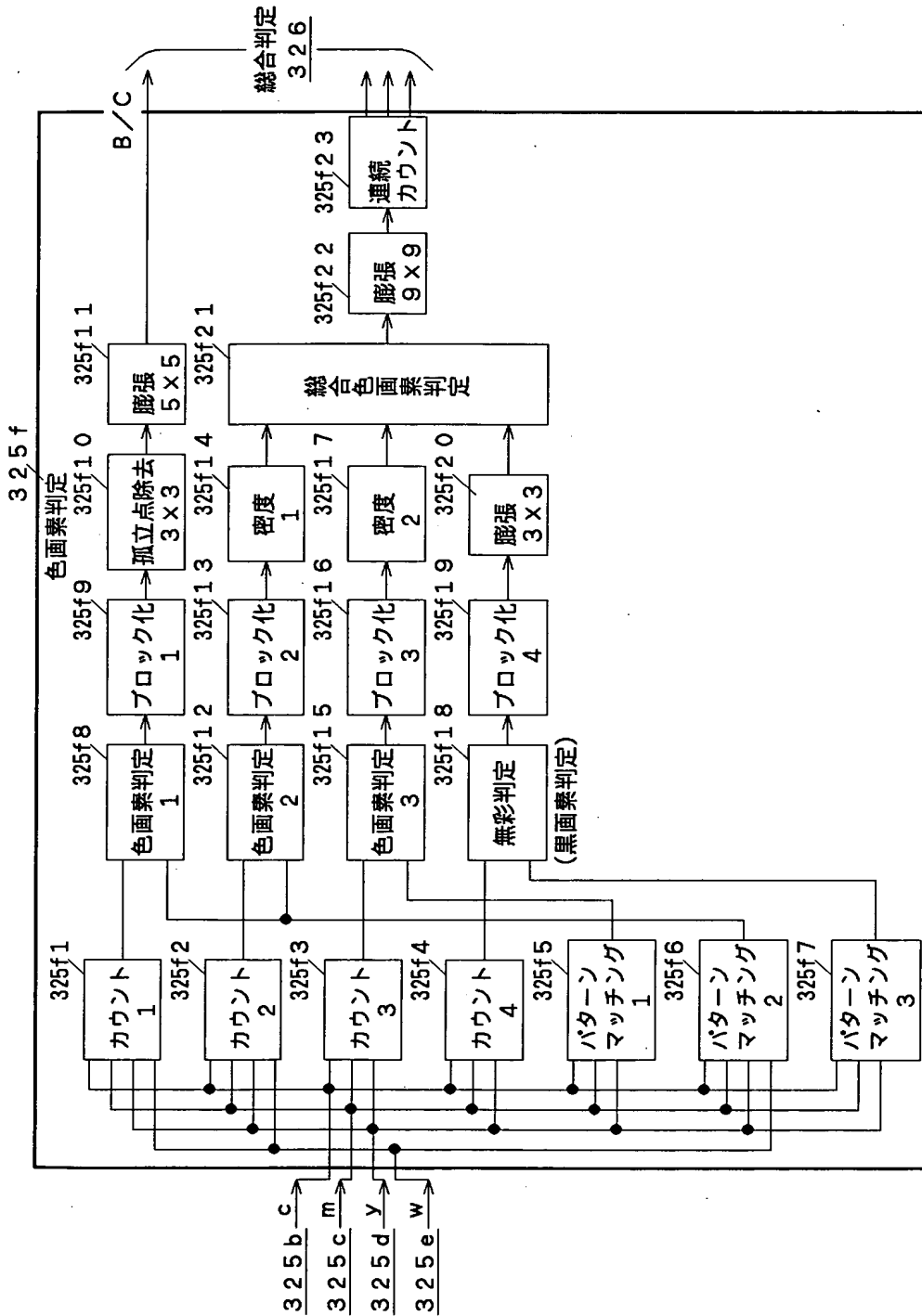
【図 3】



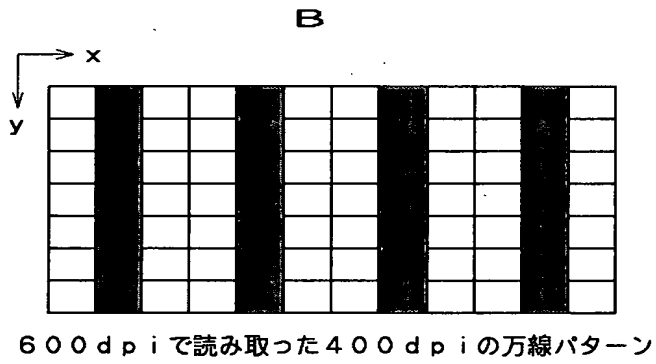
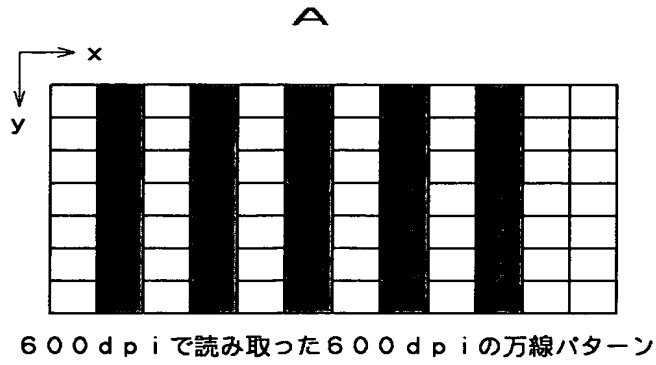
【圖 4】



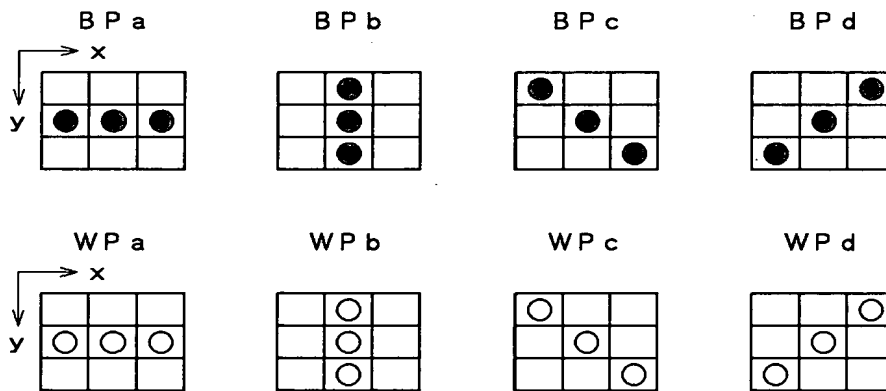
【図 5】



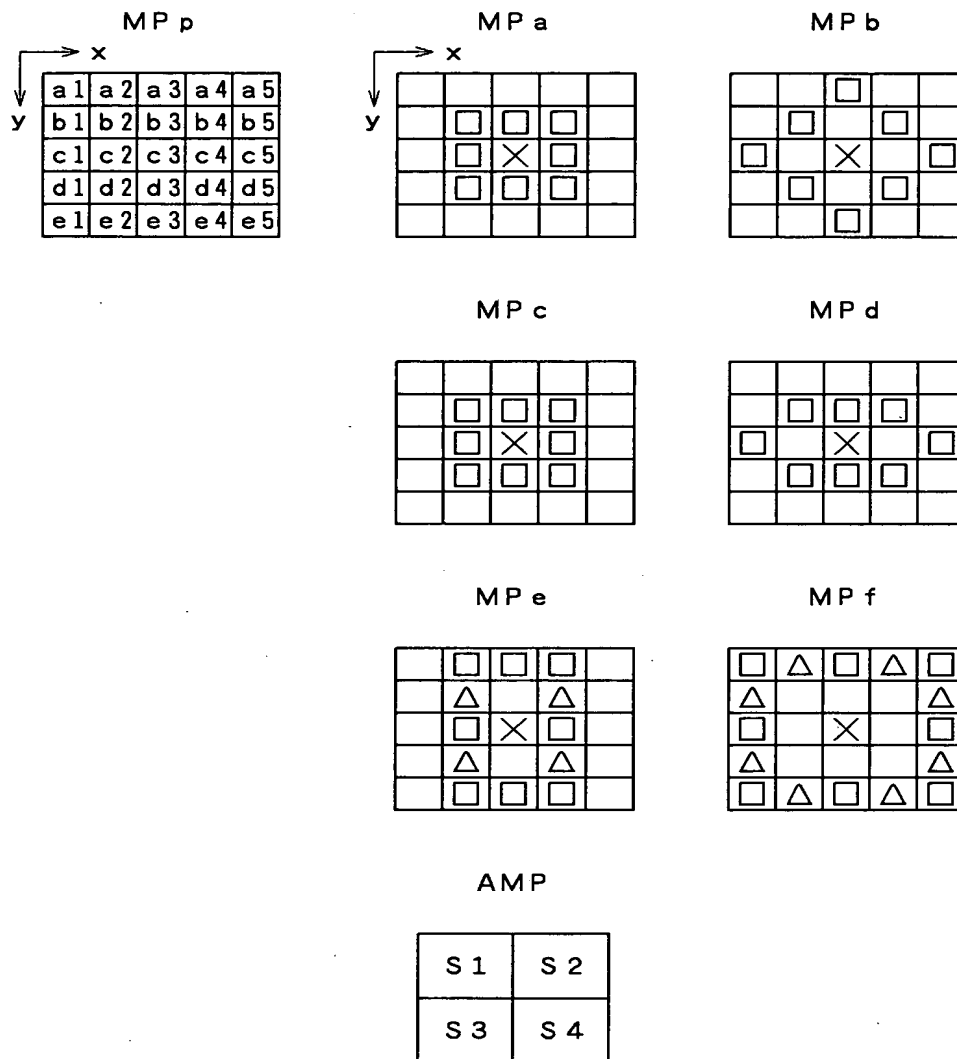
【図 6】



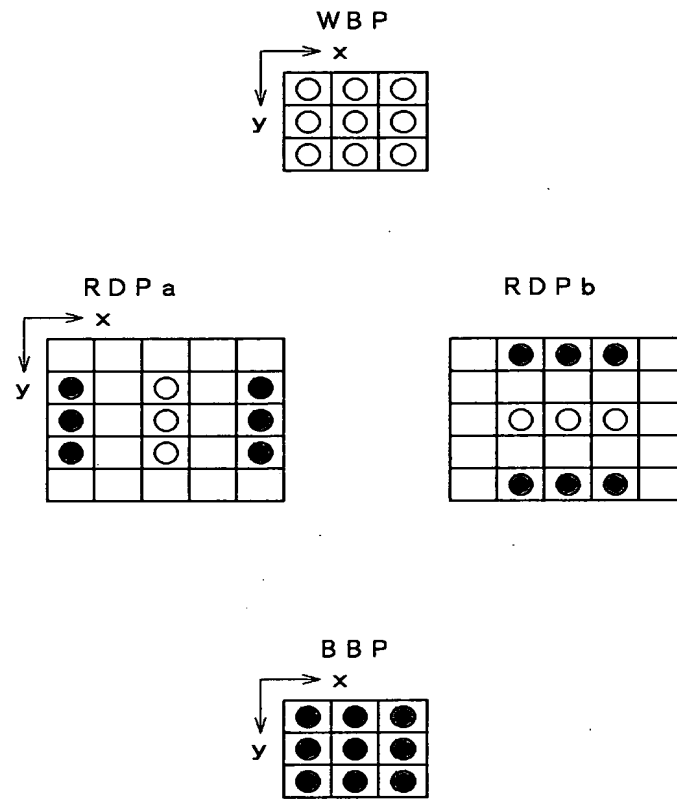
【図 7】



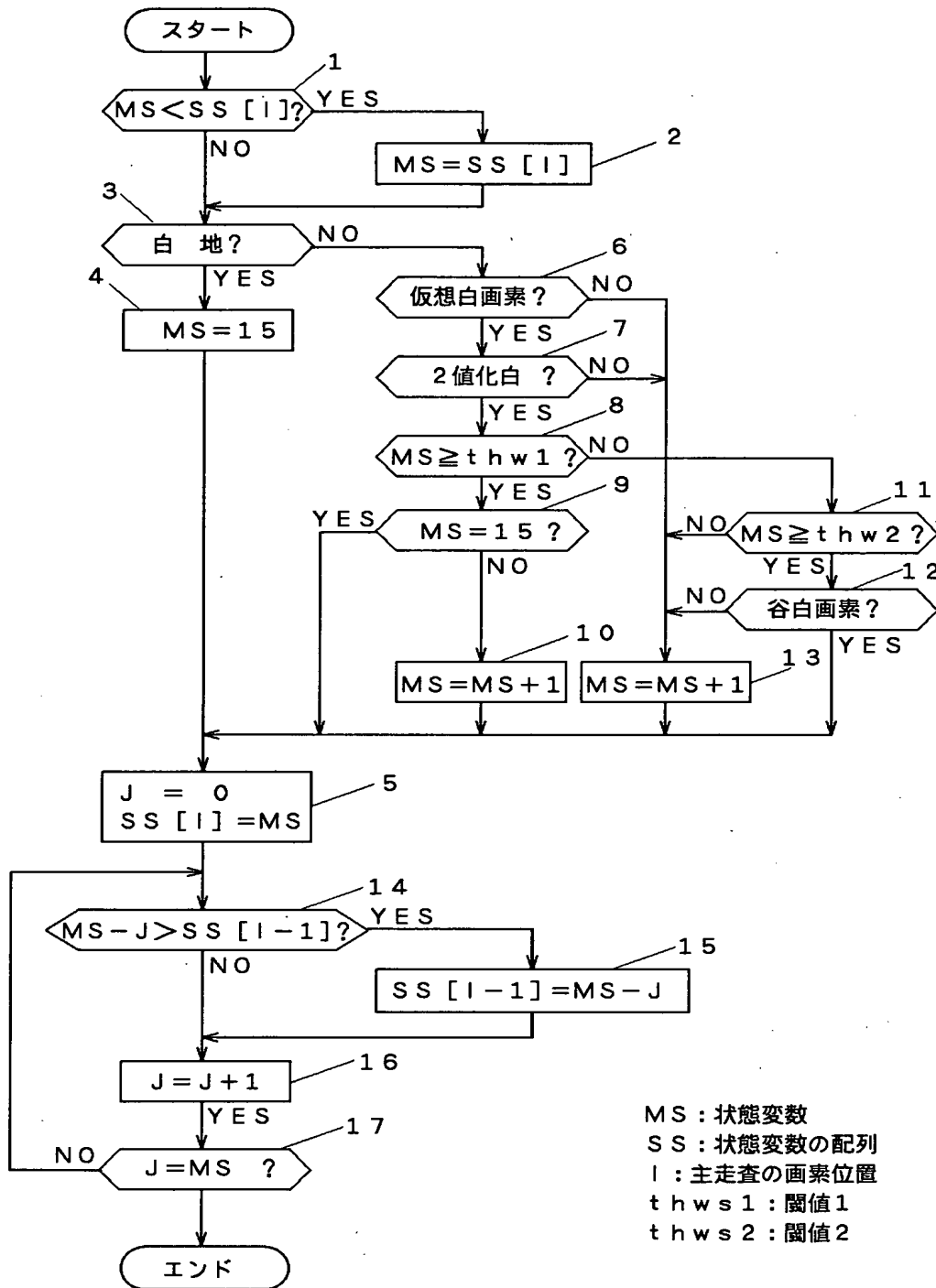
【図 8】



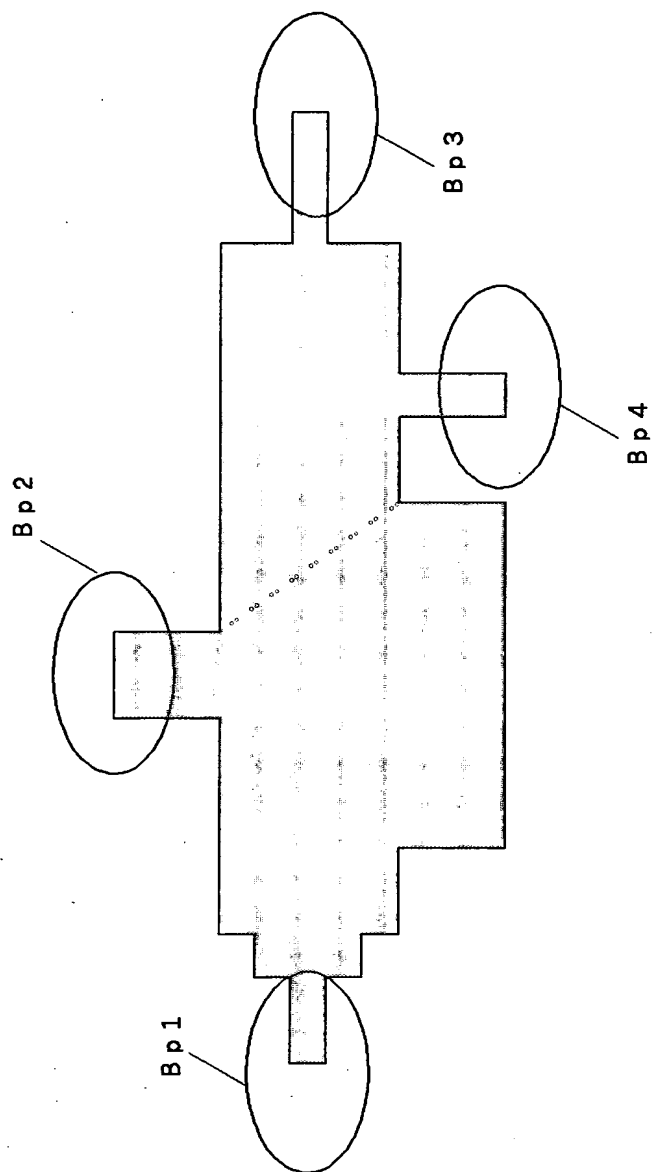
【図 9】



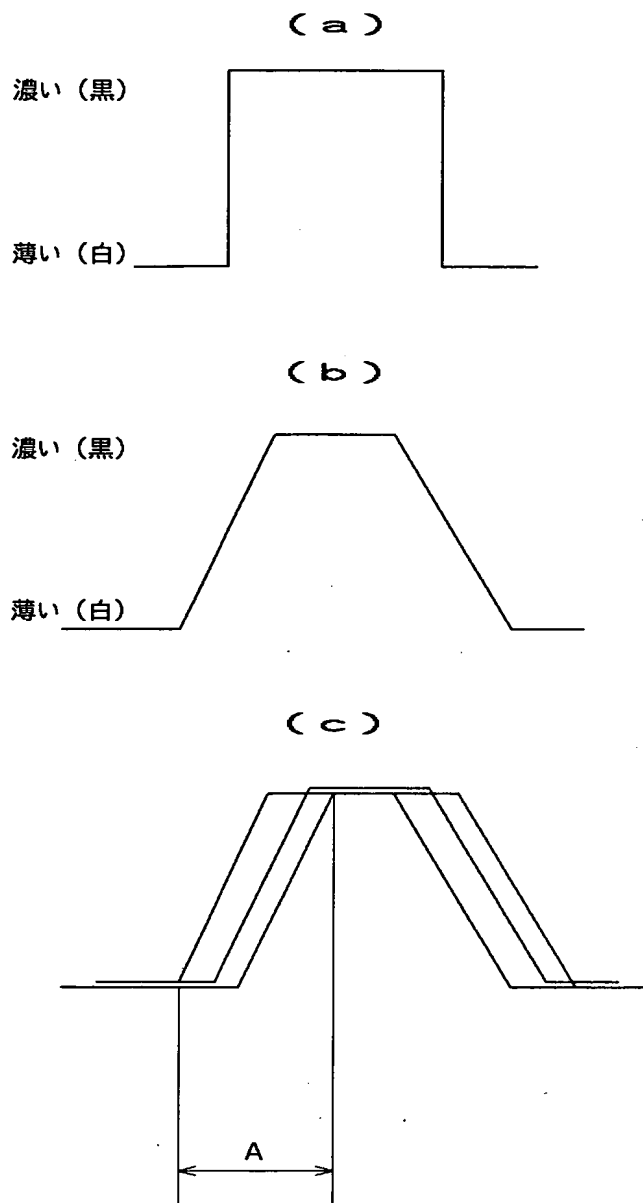
【図10】



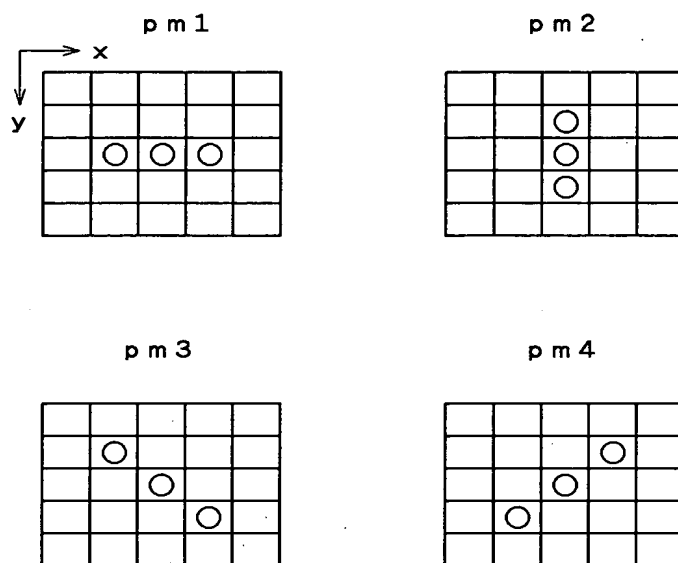
【図 12】



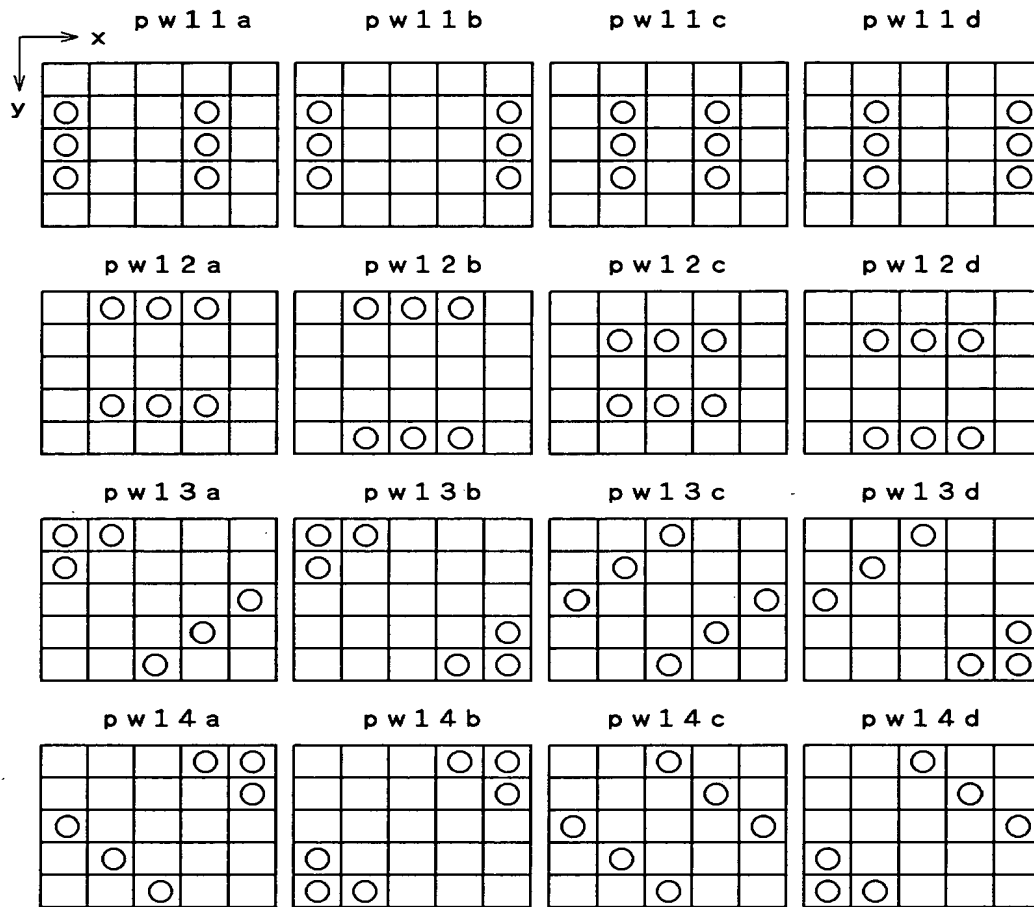
【図 1 3】



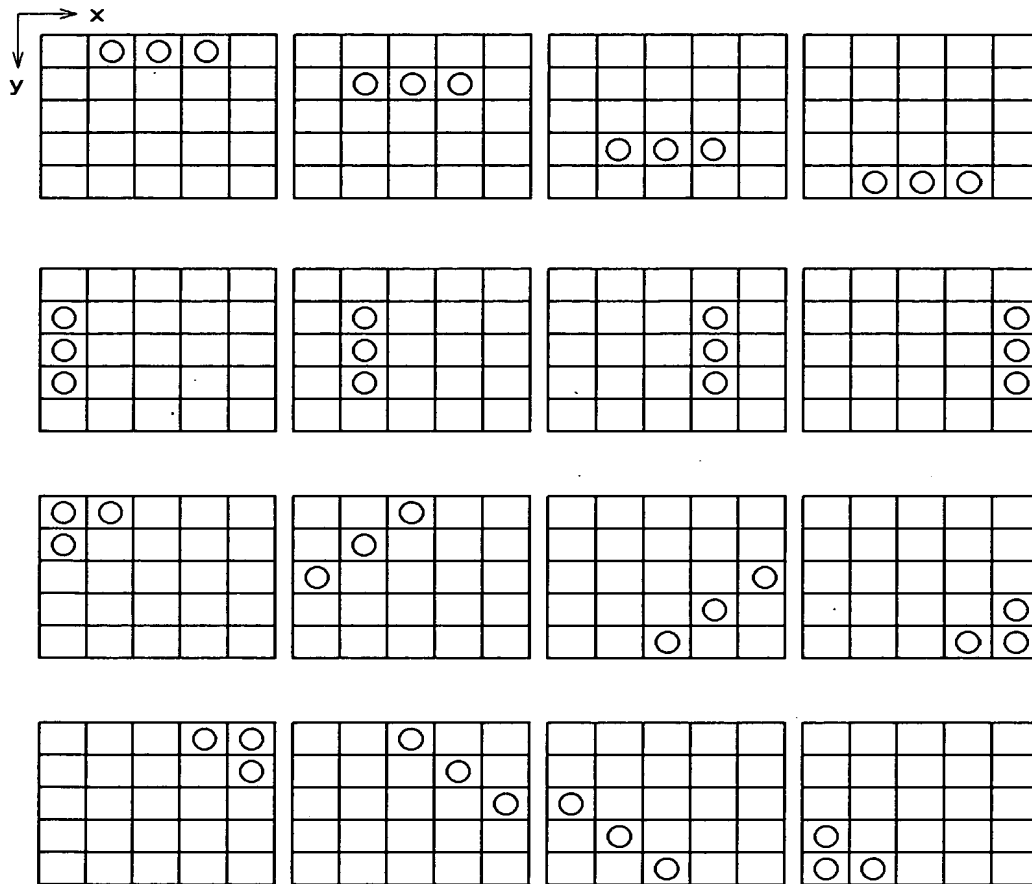
【図 1 4】



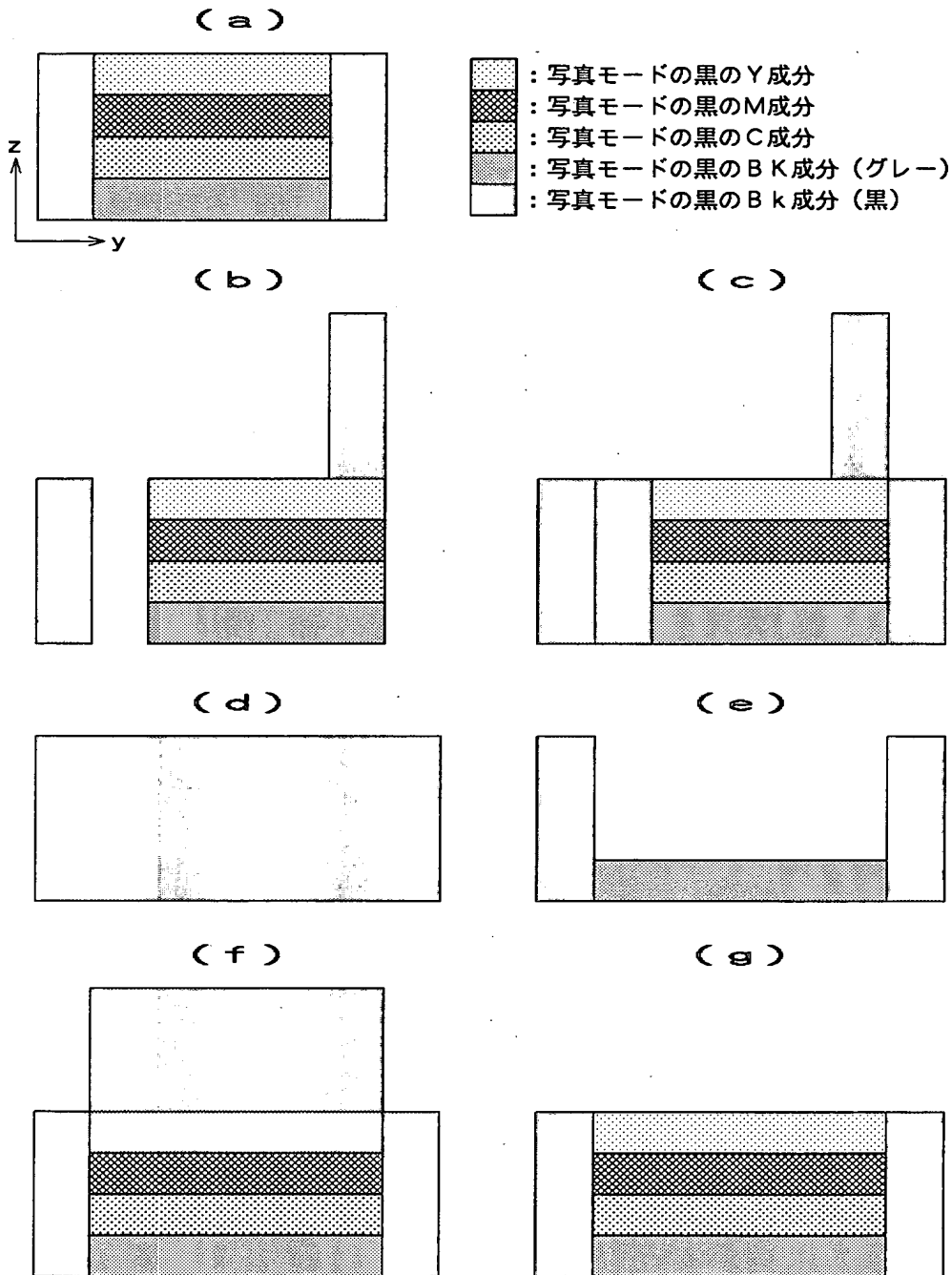
【図 15】



【図 1 6】



【図18】



【図 19】

(a)

	x1	x2	x3	x4
y1				
y2	A21	A22	A23	A24

(b)

	x1	x2	x3	x4
y1				
y2				B24

(c)

	x1	x2	x3	x4
y1				
y2				C24

(d)

	x1	x2	x3	x4	
y1			Q13	Q14	Q15
y2			Q23	Q24	

注目画素

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 文字の再現画質を高くする。具体的には、文字エッジの外側に隣接して薄い黒または他色があられるのを防止。文字のなかの黒が薄くならないようにする。黒エッジの内部と黒エッジとの境界が薄くならないようにする。文字の線幅内か否の識別を正確にする。万線パターンの濃度高低分布を文字エッジと誤認識するのを防ぐ。

【解決手段】 カラー原稿をデジタル的に読み取り、読み取られたカラー R, G, B 画像データを基に、イエロー y、シアン c、マゼンタ m、ブラック b k の色材を用いて多色重ねするカラー画像処理装置であって、カラー画像データの注目画素が文字エッジ領域であるか否かを検出する文字検出手段 3 2 1, 3 2 2, 3 2 6 a とブラック作像時に文字エッジ領域に囲まれた非文字領域である場合は、文字エッジ領域に変換する手段 3 2 6 b を備えることを特徴とする画像処理装置。

【選択図】 図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー